

申命記 1 回
「申命記の歴史的背景」
申 1 : 1~4

1. はじめに

(1) 旧約聖書の最初の五書は、本来は「ひとつの書」として書かれたものである。

- ①著者はモーセである。
- ②モーセは、カナン之地に入国する前のイスラエル人のために五書を書いた。
- ③彼らは、イスラエルの歴史や出エジプトの歴史を知らない世代である。
- ④彼らは、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。
 - *自分たちは、どこから来たのか。
 - *自分たちにカナン之地を与えると約束してくれたのは、誰か。
 - *カナン之地で生きる目的は何か。

(2) モーセの五書（トーラー）の文脈

- ①創世記は、罪の起源と、罪を解決するメシアの到来について教えている。
- ②出エジプト記は、エジプトでの奴隷状態からの解放を記録している。
- ③レビ記は、聖い神との交わりを維持する方法を教えている。
- ④民数記は、約束の地への旅と、その過程で起こった世代交代を記録している。
- ⑤申命記は、新しい世代に対して律法の内容を解説している。

(3) 申命記という名称

- ①ヘブル語の書名は「エレー・ハデバリム」である。
 - *この書の最初の 3 語が、タイトルになっている。
 - *英語で「These are the words」という意味である。
- ②英語では、「Deuteronomy」と言う。
 - *七十人訳聖書の「Deuteronomion」（第 2 の律法）から出たもの。
 - *七十人訳は、申 17 : 18 の「律法の写し」という言葉を誤訳した。
- ③日本語の「申命記」は、漢語訳聖書からの借用である。
 - *「申命」とは「繰り返して命じる」という意味である。
 - *漢語訳の書名にも、「第 2 の律法」という誤解が反映されている。
- ④申命記は「第 2 の律法」ではなく、啓示されていた律法の解説書である。

(4) 申 31~34 章は、モーセが書いたのではない。恐らくヨシュアであろう。

- ②これを根拠に、モーセが著者であることを否定すべきではない。
- ③この部分は、本来はヨシュア記に属するものである。

(5) 申命記のアウトライン (宗主権契約の形式)

- ①第 1 の説教：歴史の回顧 (1 : 5～4 : 43)
- ②第 2 の説教：契約に基づく義務 (4 : 44～26 : 19)
- ③第 3 の説教：祝福と呪いの宣言 (27 : 1～29 : 1)
- ④第 4 の説教：契約条項のまとめ (29 : 2～30 : 20)
- ⑤モーセからヨシュアへの世代交代 (31～34 章)

2. メッセージのアウトライン (イントロダクション)

- (1) 話し手と聴衆 (1 節 a)
- (2) 場所 (1 節 b)
- (3) 時 (2～4 節)

3. 結論

- (1) 【主】という御名の意味
- (2) 【主】という御名の使用法の変遷

申命記の歴史的背景について学ぶ。

I. 話し手と聴衆 (1 節 a)

Deu 1:1a これは、モーセがイスラエルのすべての民に告げたことばである。

1. 話し手は、モーセである。

- (1) モーセは、シナイ契約を更新するために、新しい世代に語りかけた。
 - ①イスラエルの民は、ヨルダン川の東側の地域を征服した。
 - ②約束の地は目の前に見えている。
 - ③モーセの死期は近い。
 - ④そこでモーセは、揺れ動く民に向かって力あるメッセージを語った。

(2) モーセには、語る資格があった。

- ①彼は、シナイ契約の仲介者であった。
- ②彼は、イスラエルで最初の預言者であった。
 - *アブラハムも預言者と呼ばれている (創 20 : 7) 。
 - *しかし、その頃はイスラエルの民はまだ存在していなかった。
- ③申 34 : 10

Deu 34:10 モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼は、【主】が顔と顔を合わせて選び出したのであった。

④メシアが到来するまでは、モーセのような預言者は出なかった。

＊「私のような一人の預言者」（申 18 : 15）

＊「モーセのような預言者」（申 34 : 10）

⑤新約聖書では、旧約の人物の中でモーセの名が一番多く出て来る（91 回）。

2. 聴衆は、イスラエルの民である。

(1) 「イスラエルのすべての民」（全イスラエル）（all Israel）

①申命記では、この表現が 12 回出て来る。

②イスラエルの民が運命共同体であることが強調されている。

＊ともに、エジプトからの脱出を経験した。

＊ともに、シナイ契約の締結に参加した。

＊ともに、約束の地に向かっている。

(2) イスラエルの民は、どの民族とも異なるユニークな民である。

①彼らは、全人類を救うための器となる「選びの民」である。

②モーセが語る神のことばが、イスラエルの民にとっての憲法である。

③それゆえ、彼らは真剣に耳を傾ける必要がある。

II. 場所（1 節 b）

Deu 1:1b ヨルダンの川向こう、パランと、トフェル、ラバン、ハツェロテ、ディ・ザハブとの間の、スフに面したアラバの荒野でのことであつた。

1. イスラエルの民は、約束の地の戸口に立っていた。

(1) ここは、モアブの草原である。

①民 22 : 1

Num 22:1 イスラエルの子らは旅を続け、ヨルダンのエリコの対岸にあるモアブの草原に宿営した。

②「ヨルダンの川向こう」とは、ヨルダン川の東岸地区である。

③「アラバの荒野」とは、ガリラヤ湖から紅海（アカバ湾）に至る溪谷である。

(2) 今では分からなくなっている地名がある。

①パラン、トフェル、ラバン、ハツェロテ、ディ・ザハブ、スフ

III. 時（2～4 節）

1. 2 節

Deu 1:2 ——ホレブからセイル山を経てカデシュ・バルネアに至る道のりは、十一日である——

(1) 時間を記す理由

- ①神の啓示を歴史の中に位置づけるため
- ②神への不従順がいかに恐ろしいものであるかを示すため

(2) ホレブからカデシュ・バルネアまでは、11 日間で移動できる。

- ①ホレブは、シナイ山を含む山脈である。
- ②カデシュ・バルネアは、南側から約束の地に入るための玄関口である。
- ③ホレブからカデシュ・バルネアまでは、約 240 キロの距離である。
- ④この距離には、霊的意味がある。
 - *ホレブは、契約締結の場所である。
 - *カデシュ・バルネアは、約束の地の南の境界線にある。

(3) しかし、シナイ山からモアブの草原に来るのに、38 年間もかかった。

- ①神の約束を信じない者は、人生の指針を失う。
 - *その人は、信仰者ではなく、単なる放浪者となる。
- ②38 年後にたどり着いたモアブの草原は、約束の地への第 2 の玄関口である。
- ③ここは、東側から約束の地に入る入り口である。

(4) 遅延の原因は、イスラエルの民の不信仰である。

- ①歴史から学ばない者は、同じ失敗を繰り返す。
- ②使 7 : 39～40（ステパノのメッセージ）

Act 7:39 ところが私たちの先祖たちは、彼に従うことを好まず、かえって彼を退け、エジプトをなつかしく思って、

Act 7:40 アロンに言いました。『われわれに先立って行く神々を、われわれのために造ってほしい。われわれをエジプトの地から導き出した、あのモーセがどうなったのか、分からないから。』

③マタ 8 : 10（百人隊長の信仰に驚いたイエスのことば）

Mat 8:10 イエスはこれを聞いて驚き、ついて来た人たちに言われた。「まことに、あなたがたに言います。わたしはイスラエルのうちのだれにも、これほどの信仰を見たことがありません。

(5) それでも神は、不信仰な民を用いてご自身の計画を成就しようとされる。

- ①アブラハム契約のゆえである。
- ②アブラハム契約は、無条件契約である。

③新しい契約も、無条件契約である。

2. 3 節

Deu 1:3 第四十年の第十一月の一日にモーセは、【主】がイスラエルの子らのために彼に命じられた、すべてのことにしたがって、彼らに語った。

(1) 荒野の放浪期間の最後に、モーセはイスラエルの民に語った。

①内容は、【主】がモーセに命じたことである。

②その命令は、イスラエルの子らに祝福を与えるためのものである。

③それをモーセは、「ことごとく告げた」（口語訳）

3. 4 節

Deu 1:4 それはモーセが、ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホン、およびアシュタロテに住んでいたバシヤンの王オグを、エデレイで打ち破った後のことであった。

(1) これが、歴史的背景の締めくくりである。

①2人の王を打ち破った後のことであった。

*ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホン

*アシュタロテに住んでいたバシヤンの王オグ

②民 21 : 21～35

(2) この記述は、イスラエルの民に希望を与えるためのものであろう。

結論：

1. 【主】という御名の意味

(1) 申 1 : 3

Deu 1:3 第四十年の第十一月の一日にモーセは、【主】がイスラエルの子らのために彼に命じられた、すべてのことにしたがって、彼らに語った。

(2) 申命記では、【主】（ヤハウェ）という御名が 220 回以上登場する。

①申 1 : 3 で、【主】という御名が初めて登場する。

②神（エロヒム）は、わずか 38 回である。

(3) 【主】とは、契約の神の御名である。

①出 3 : 13～14

Exo 3:13 モーセは神に言った。「今、私がイスラエルの子らのところに行き、『あなたがたの父祖の神が、あなたがたのもとに私を遣わされた』と言えば、彼らは『その名は何か』と私に聞くでしょう。私は彼らに何と答えればよいのでしょうか。」

Exo 3:14 神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところに遣わされた、と。」

②【主】とは、「わたしは『わたしはある』という者である」という意味。

③特に、イスラエルの民と関わる場合の神の御名である。

(4) 申命記は、【主】とイスラエルの民の間の契約の書である。

①【主】は、契約の民がご自身の倫理基準に従って歩むことを期待される。

2. 【主】という御名の使用法の変遷

(1) ユダヤ教徒の習慣

①旧約聖書が完成した直後（前5世紀の終わり）に、迷信が考え出された。

②公の聖書朗読に際して、「ヤハウエ」と発音しないで、「アドナイ」と読み替えるようになった。

③「アドナイ」とは、「我が主」という意味である。

④結果的には、ユダヤ教は「ヤハウエ」が持つ豊かな霊的意味を失った。

(2) クリスチャンの習慣

①クリスチャンは、神に向かって「ヤハウエ」とは呼びかけない。

②神は、イエス・キリストにあつてご自身を啓示された。

③ヘブ 1:1~2

④クリスチャンは、祈りの中で「父よ」と呼びかける。

⑤ヨハ 14:6

Joh 14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。

⑥ロマ 8:15

Rom 8:15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。

⑦1コリ 1:3

1Co 1:3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

(3) 自問自答してみよう。

①私は、どこから来て、どこへ行こうとしているのか。

②私は、なんのために生きているのか。

申命記 2回

「約束の地に入る最初の試み（1）」

—シナイ山からの出発—

申 1：5～18

1. はじめに

(1) モーセは、カナンの地に入国する前のイスラエル人のために五書を書いた。

①彼らは、イスラエルの歴史や出エジプトの歴史を知らない世代である。

②彼らは、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。

＊自分たちは、どこから来たのか。

＊自分たちにカナンの地を与えると約束してくれたのは、誰か。

＊カナンの地で生きる目的は何か。

(2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）

①第1の説教：歴史の回顧（1：5～4：43）

②第2の説教：契約に基づく義務（4：44～26：19）

③第3の説教：祝福と呪いの宣言（27：1～29：1）

④第4の説教：契約条項のまとめ（29：2～30：20）

(3) 1章のアウトライン

①本書の目的（1：5）

②シナイ山からの出発（1：6～8）

③指導者の任命（1：9～18）

④カデシュ・バルネア事件（1：19～33）

⑤不信仰に下る裁き（1：34～46）

2. メッセージのアウトライン

(1) 本書の目的（1：5）

(2) シナイ山からの出発（1：6～8）

(3) 指導者の任命（1：9～18）

3. 結論：申命記の主要なテーマ

シナイ山からの出発について学ぶ。

I. 本書の目的（1：5）

1. 5節

Deu 1:5 ヨルダンの川向こう、モアブの地で、モーセは次のように、みおしえの確認を行うことにした。

- (1) 申命記 1 : 5 を見ると、本書の目的がなんであるかが分かる。
 - ①イスラエルの民は、ヨルダン川の東、モアブの地にいた。
 - ②モーセは、約束の地に入ろうとしている新しい世代に律法の解説を行った。

(2) 訳文の比較

「このみおしえを説明し始めて言った」（新改訳）

「みおしえの確認を行うことにした」（新改訳 2017）

「この律法の説き明かしに当たった」（新共同訳）

「みずから、この律法の説明に当たった、そして言った」（口語訳）

- ①モーセは、すでに啓示されていた律法の内容を分かりやすく解説した。
- ②「バアール」という動詞は、かみ砕いて分かりやすく説明するという意味。
- ③目的は、イスラエルの民に約束の地での生活の指針を与えるためである。
- ④「律法」（Law）と訳されている言葉は、ヘブル語で「トーラー」である。
 - * 「トーラー」は、極めて積極的な言葉である。
 - * 命を得るための教えであり、規定である。
 - * 人に対する神の御心を示すのが、「トーラー」である。

II. シナイ山からの出発（1 : 6～8）

1. 6～7 節

Deu 1:6 私たちの神、【主】はホレブで私たちに告げられた。「あなたがたはこの山に十分長くとどまった。

Deu 1:7 あなたがたは向きを変えて出発せよ。そしてアモリ人の山地に、またそのすべての近隣の者たちの地、すなわち、アラバ、山地、シェフェラ、ネゲブ、海辺、カナン人の地、レバノン、さらにあの大河ユーフラテス川にまで行け。

- (1) 申命記は「ものごとの始まりの書」である。
 - ①過去は忘却の彼方に過ぎ去ったものではなく、「未来の始まり」である。
 - ②歴史的文脈を理解せずに、未来を切り拓くことはできない。

(2) 第一の説教は、ホレブ（シナイ山）出発の場面から始まる。

- ①本書の中では、シナイ山はホレブと呼ばれている。
- ②モーセは、実際に起こった順番とは逆に、歴史を回顧して行く。
 - * シナイ山での金の子牛事件（9～10 章）
 - * 出エジプトの出来事（11 章）

③モーセは、聴衆にはある程度の知識があることを想定して話している。

(3) 最初の文は、「私たちの神、【主】」という言葉で始まる。

①「アドナイ エロヘヌ」という言葉は、本書に約 50 回出て来る。

②【主】こそ、モーセの説教の主役である。

＊【主】は、イスラエルの歴史の導き手である。

＊【主】は、イスラエルと契約を結んだ方である。

③約束の地に向かう理由は、【主】がその地を与えると約束されたからである。

④神の約束が成就すると信じた人は、「向きを変えて出発」する。

2. 8 節

Deu 1:8 見よ、わたしはその地をあなたがたの手に渡している。行け。その地を所有せよ。これは【主】があなたがたの父祖アブラハム、イサク、ヤコブに対して、彼らとその後の子孫に与えると誓った地である。」

(1) 神の視点からは、約束の地はイスラエルの民に渡されている（未来完了形）。

①その約束を信じて行動を起こすのが、信仰である。

②「土地を所有せよ」という命令は、申命記に 18 回出て来る。

③この命令は、民が【主】の約束を信じるかどうかの試金石である。

(2) 約束の地の範囲は、アブラハムに約束されたものと同じである。

①創 15 : 18～19 参照

②実に広大な土地で、人間的には征服は不可能に思える。

③ダビデ・ソロモン時代でさえ、ここまで領土を広げることはなかった。

④それが成就するのは、千年王国においてである。

(3) モーセは、約束の地の征服は可能だと心から信じている。

①神はアブラハムに土地の約束をされた（創 15 : 18～21、17 : 7～8）。

②イサクとヤコブに再確認された（創 26 : 3～5、28 : 13～15、35 : 12）。

③「アブラハム、イサク、ヤコブに誓った」は、申命記に 7 回も出て来る。

④民は、自分がアブラハム契約の継承者であることを認識する必要があった。

Ⅲ. 指導者の任命（1 : 9～18）

1. 9～11 節

Deu 1:9 私はあのとき、あなたがたにこう言った。「私一人であなたがたを負うことはできない。」

Deu 1:10 あなたがたの神、【主】があなたがたを増やされたので、見よ、あなたがたは今日、空の星のように多い。

Deu 1:11 どうか、あなたがたの父祖の神、【主】があなたがたを今の千倍にも増やしてくださるように。そして、あなたがたに約束されたとおり、あなたがたを祝福してくださるように。

(1) この箇所ではモーセは、出 18 : 13～26 に記録された出来事に言及している。

①モーセは、舅イテロの助言に従い、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長を任命した。

②ただし、物語を記述する順番が異なっている。

* 出エジプト記では、指導者の任命の次にシナイ山からの出発が続く。

* 申命記では、順序が逆になっている。

③「指導者の任命」は、時間の流れを無視した挿入句である。

* ここでは、「指導者の任命」の重要性が強調されている。

(2) モーセは、シナイ山の麓で、神が約束に忠実なお方であることを、イスラエルの民に教えようとした。

①民は、モーセひとりでは指導し切れないほどに数が増えていた。

②これは、神がアブラハムに与えた子孫の約束の成就である。

③主役は、「あなたがたの神、【主】」である。

④また、「あなたがたの父祖の神、【主】」である。

* この言葉は、申命記にたびたび登場する。

* 申 1 : 21、4 : 1、6 : 3、12 : 1、27 : 3 参照

(3) 神は、イスラエルの民が約束の地で増え広がることを期待された。

①約束の地の征服は、信仰による業である。

②その地で、義なる民として生活することもまた、信仰による業である。

2. 12～13 節

Deu 1:12 どのようにして、私一人であなたがたのもめごとと重荷と争いを負いきれるだろうか。

Deu 1:13 あなたがたは部族ごとに、知恵があり判断力があり経験に富む人たちを出しなさい。彼らをあなたがたのかしらとして立てよう。」

(1) 祝福は、新たな課題を産み出す。

①モーセ一人では、民の争いごとを裁くことができない。

* これは、人口増の結果である。

* さらに、律法が与えられた結果である。

②民の中から、指導者たちを任命する必要がある。

4. 14～15 節

Deu 1:14 すると、あなたがたは私に答えて、「あなたがしようと言われたことは良いことです」と言った。

Deu 1:15 そこで私は、あなたがたの部族のかしらで、知恵があり経験に富む人たちを選び取り、彼らをあなたがたの上に立つかしらとし、あなたがたの部族の千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長、また、つかさたちとした。

(1) 「部族のかしらで、知恵があり経験に富む人たち」を指導者として選ぶ。

①民は、その提案に同意した。

(2) モーセは、部族のかしらで、知恵があり経験に富む人たちを選び取った。

①彼らを、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長、また、つかさたち（役人）とした。

②彼らが行うのは、法律的判断である（裁判官としての使命）。

5. 16～17 節

Deu 1:16 そのとき、私はあなたがたのさばき人たちに命じた。「あなたがたの同胞相互の言い分をよく聞き、ある人とその同胞との間、また寄留者との間を正しくさばきなさい。

Deu 1:17 裁判では人を偏って見てはならない。身分の低い人にも高い人にもみな、同じように聞かなければならない。人を恐れてはならない。さばきは神のものだからである。あなたがたにとって難しすぎる事柄は、私のところに持って来なさい。私がそれを聞こう。」

(1) さばき人たちは、約束の地で義なる生活を実現する指導者たちである。

①相互の言い分をよく聞き、ある人とその同胞との間、また寄留者との間を正しくさばかなければならない。

②人を偏って見てはならない。身分の低い人にも高い人にもみな、同じように聞かなければならない。

③人を恐れてはならない。

(2) 難しすぎる案件は、モーセにところに持って来る。

①古代中近東の宗主権契約では、王が最終的な判断を下す。

②申命記では、その役割をモーセが果たしている。

6. 18 節

Deu 1:18 私はまた、そのとき、あなたがたが行うべきすべてのことを命じた。

(1) エジプトを出たイスラエルの民は、自らの使命がなんであるかを教えられた。

①約束の地を征服し、そこに正義によって統治する聖なる国を作ることが、彼らに与えられた使命である。

②私たちもまた、神から与えられた使命がなんであるか考える必要がある。

結論：申命記の主要なテーマ

1. イスラエルに土地を約束された神は、比類なきお方である。

(1) 申 6 : 4

Deu 6:4 聞け、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は唯一である。

2. イスラエルは契約の民であり、選びの民である。

(1) 申 7 : 6

Deu 7:6 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。あなたの神、【主】は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。

3. 神とイスラエルの民の間には、特別な契約関係がある。

(1) 申 29 : 13

Deu 29:13 先に主があなたに約束されたように、またあなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われたように、今日あなたを立ててご自分の民とし、またご自分があなたの神となられるためである。

4. 私たちへの適用

(1) 私たちに永遠のいのちを約束された神は、比類ないお方である。

(2) 私たちは、天地創造の前から選ばれた選びの民である。

(3) 神と私たちの間には、特別な契約関係がある（新しい契約）。

申命記 3 回

「約束の地に入る最初の試み（2）」

—カデシュ・バルネア事件—

申 1：19～33

1. はじめに

(1) モーセは、カナンの地に入国する前のイスラエル人のために五書を書いた。

①彼らは、イスラエルの歴史や出エジプトの歴史を知らない世代である。

②彼らは、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。

＊自分たちは、どこから来たのか。

＊自分たちにカナンの地を与えると約束してくれたのは、誰か。

＊カナンの地で生きる目的は何か。

(2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）

①第 1 の説教：歴史の回顧（1：5～4：43）

②第 2 の説教：契約に基づく義務（4：44～26：19）

③第 3 の説教：祝福と呪いの宣言（27：1～29：1）

④第 4 の説教：契約条項のまとめ（29：2～30：20）

(3) 1 章のアウトライン

①本書の目的（1：5）

②シナイ山からの出発（1：6～8）

③指導者の任命（1：9～18）

④カデシュ・バルネア事件（1：19～33）

⑤不信仰に下る裁き（1：34～46）

2. メッセージのアウトライン

(1) シナイ山からカデシュ・バルネアまで（1：19～21）

(2) 偵察隊の派遣（1：22～25）

(3) 不信仰の罪（1：26～33）

3. 結論：同じ事実に対する 2 つの解釈

(1) 不信仰による解釈

(2) 信仰による解釈

カデシュ・バルネア事件について学ぶ。

I. シナイ山からカデシュ・バルネアまで（1：19～21）

1. 19 節

Deu 1:19 私たちの神、【主】が私たちに命じられたとおりに私たちはホレブを旅立ち、あなたがたが見た、あの大きな恐ろしい荒野、すなわちアモリ人の山地への道を進み、カデシュ・バルネアまで来た。

（1）19 節の記述は、8 節に続くものである。

①「指導者の任命」（9～18 節）は挿入句である。

②8 節の確認

Deu 1:8 見よ、わたしはその地をあなたがたの手に渡している。行け。その地を所有せよ。これは【主】があなたがたの父祖アブラハム、イサク、ヤコブに対して、彼らとその後の子孫に与えると誓った地である。」

（2）約束の地征服の最初のステップは、カデシュ・バルネアまでの行進である。

①地図の表示

②シナイ山からカデシュ・バルネアまでは、160 キロ以上の旅になる。

③民は、荒野を通過するように導かれた。

*「あの大きな恐ろしい荒野」とは、水も緑もない乾燥地帯である。

（3）荒野を通過する理由は 2 つ考えられる。

①約束の地への渴望を与えるため

*イスラエルの民は、緑豊かで肥沃な地に憧れた。

②神への信頼を植え付けるため

*神は、荒野の旅の間、父が子を守るようにイスラエルの民を守られた。

（4）肥沃な地への渴望と神への信頼は、約束の地征服のために不可欠である。

①信仰者は、人生の荒野を通過する中で、渴望と信頼を獲得する。

2. 20～21 節

Deu 1:20 そのとき、私はあなたがたに言った。「あなたがたは、私たちの神、【主】が私たちに与えようとされるアモリ人の山地に来た。

Deu 1:21 見よ、あなたの神、【主】はこの地をあなたの手に渡してくださった。上れ。占領せよ。あなたの父祖の神、【主】があなたに告げられたとおりに。恐れてはならない。おののいてはならない。」

（1）カデシュ・バルネアへの途上で重要な事件が起こったが、省略されている。

①食物に関する不平とマナの供給（民 11 章）

②ミリアムとアロンのモーセに対する反抗（民 12 章）

(2) モーセは、再度【主】の命令を語った。

①「見よ、あなたの神、【主】はこの地をあなたの手に渡してくださった」

＊民と契約を結んだ神である【主】は、この土地を渡してくださった。

②「上れ。占領せよ」

＊この命令は、神の約束に対する応答である。

③「恐れてはならない。おののいてはならない」

＊モーセは、土地の征服がいかに困難な試みであるかをよく知っていた。

＊不信仰は、恐れという果実を生み出す。

II. 偵察隊の派遣（1：22～25）

1. 22～23 節

Deu 1:22 すると、あなたがたはみな私のもとに近寄って来て言った。「私たちより先に人を遣わし、私たちのためにその地を探らせよう。そして、私たちが上って行く道や入って行く町々について、報告を持ち帰らせよう。」

Deu 1:23 私にはこのことが良いことと思われたので、私はあなたがたの中から各部族ごとに一人ずつ、十二人を選んだ。

(1) 約束の地征服の第 2 のステップは、偵察隊の派遣であった。

①これに関しては、民 13 章の説明と申 1 章の説明が異なる。

②民 13：1～2

Num 13:1 【主】はモーセに告げられた。

Num 13:2 「人々を遣わして、わたしがイスラエルの子らに与えようとしているカナンの地を偵察させよ。父祖の部族ごとに一人ずつ、族長を遣わさなければならない。」

(2) 民 13 章と申 1 章の矛盾の解決法

①民が偵察隊の派遣をモーセに求めた。

②モーセは、それはよいことだと考え、了承した。

③モーセが【主】にたずねてみると、【主】もそれに同意された。

(3) 各部族から一人ずつ、合計 12 人から成る偵察隊が派遣された。

①神の御心を行うために、人間の側で準備するのは悪いことではない。

2. 24～25 節

Deu 1:24 彼らは出発し、山地に向かって上って行き、エシュコルの谷まで行き、そこを偵察した。

Deu 1:25 彼らはその地の果物を手に入れ、私たちのもとに持って帰って来た。そして報告をし、「私たちの神、【主】が私たちに与えようとしておられる地は良い地です」と言った。

- (1) 彼らは、エシュコルの谷まで行き、そこを偵察した。
 - ①ヘブロン近郊の谷で、「ぶどうのクラスター」という意味。
 - ②場所の特定はできないが、この辺りは今もぶどうの産地として有名である。
- (2) 彼らは、探ってきた地は良い地であると報告した。
 - ①モーセは、彼らの報告の否定的な部分を意図的に省いている。
 - ②「良い地」という表現は、申命記に 10 回出て来る。
* 申 1 : 25、35、3 : 25、4 : 21～22、6 : 18、8 : 7、10、9 : 6、11 : 17
 - ③「良い地」は、イスラエルの民を励ますための言葉である。

Ⅲ. 不信仰の罪（1 : 26～33）

1. 26～27 節

Deu 1:26 しかし、あなたがたは上って行こうとせず、あなたがたの神、【主】の命令に逆らった。

Deu 1:27 そして天幕の中で不平を言った。「【主】は私たちが憎んでおられるので、私たちがエジプトの地から連れ出して、アモリ人の手に渡し、私たちが根絶やしにしようとしておられるのだ。

- (1) 民は、その地に関する否定的な報告を聞いて落胆した。
 - ①12 人の内の 10 人が、否定的な報告をした。
* その地の住民がいかに恐ろしい者たちであるか（民 13 : 28～33）。
 - ②それを聞いた民は、約束の地を征服する意欲を失った。
 - ③荒野の体験が信仰を育てる機会にならないなら、それは全くの損失となる。
- (2) 民は、【主】の愛を憎しみと曲解した。
 - ①【主】は私たちがエジプトの地から連れ出した。
 - ②アモリ人（カナン人）の手に渡し、私たちが根絶やしにするためである。
 - ③これは、神の性質と神の栄光に対する挑戦である。

2. 28 節

Deu 1:28 私たちはどこへ上って行くのか。私たちの兄弟たちは、『その民は私たちよりも大きくて背が高い。町々は大きく、城壁は高く天にそびえている。しかも、そこでアナク人を見た』と言って、私たちの心を萎えさせた。」

(1) 偵察隊の報告の中で民を恐れさせた情報が3つある。

- ①その地の住民は、大きくて背が高い。
- ②町々は大きく、城壁は高く天にそびえている。
- ③そこには、アナク人がいる（民13：32～33）。

Num 13:32 彼らは偵察して来た地について、イスラエルの子らに悪く言いふらして言った。
「私たちが行き巡って偵察した地は、そこに住む者を食い尽くす地で、そこで見た民はみな、背の高い者たちだ。

Num 13:33 私たちは、そこでネフィリムを、ネフィリムの末裔アナク人を見た。私たちの目には自分たちがバッタのように見えたし、彼らの目にもそう見えただろう。」

- *ネフィリムとは、悪霊と人間の娘から生まれた超人である（創6：4）。
- *アナク人は、ネフィリムの末裔と考えられていた。
- *実際にネフィリムがいたということではない。
- *彼らの報告は誇張であり、信用できないものである。

3. 29～30 節

Deu 1:29 それで私はあなたがたに言った。「おののいてはならない。彼らを恐れてはならない。

Deu 1:30 あなたがたに先立って行かれるあなたがたの神、【主】があなたがたのために戦われる。エジプトで、あなたがたの目の前で、あなたがたのためにしてくださったのと同じように。

(1) モーセは、不信仰の民に励ましの言葉を語った。

- ①モーセは民に、過去の歴史を思い出させた。
- ②【主】がエジプトで為してくださったことを思い出すなら、カナン征服戦争にも希望が持てる。

4. 31～33 節

Deu 1:31 また荒野では、この場所に来るまでの全道中、あなたの神、【主】が、人が自分の子を抱くようにあなたを抱いてくださったのを、あなたがたは見ているのだ。

Deu 1:32 このようなことによっても、まだあなたがたはあなたがたの神、【主】を信じていない。

Deu 1:33 主はあなたがたが宿営する場所を探すために、道中あなたがたの先に立って行き、夜は火の中、昼は雲の中であって、あなたがたが行くべき道を示されるのだ。」

(1) 荒野の旅での神の守りが、「父親が子どもを抱くように」と表現されている。

- ①【主】は、人が自分の子を抱くようにイスラエルの民を抱いてくださった。
- ②しかし、イスラエルの民は、【主】を信じていない。

(2) シャカイナグローリーが、民のための偵察隊となった。

①主は、宿営する場所を捜すために、先立って行かれた。

②夜は火のうち、昼は雲のうちにあって、民が進んで行く道を示された。

③「捜す」（ツール）という動詞は、偵察隊の行動を示す動詞と同じもの。

＊民 13：2～25 に偵察隊の行動が記録されている。

④つまり、偵察隊が派遣される前から、神はその地を探り、イスラエルの民の進む道を用意しておられたということである。

結論：同じ事実に対する 2 つの解釈

1. 不信仰による解釈

(1) 偵察の目的は、約束の地に入る方法とルート調査である。

(2) 不信仰が支配すると、約束の地に入るべきかどうかという議論になる。

(3) 不信仰になると、試練を過大評価するようになる。

(4) さらに、神の性質と神の力を疑うようになる。

(5) 申 1：27

Deu 1:27 そして天幕の中で不平を言った。「【主】は私たちが憎んでおられるので、私たちがエジプトの地から連れ出して、アモリ人の手に渡し、私たちが根絶やしにしようとしておられるのだ。」

①これは、神の性質に対する侮辱である。

②これは、神の栄光に対する侮辱である。

2. 信仰による解釈

(1) 試練は、自分の信仰を育てるための神の計画である。

(2) 神の約束は、必ず成就する。

(3) 神は、神に従う者を守り、試練に打ち勝つ力を与えてくださる。

(4) 神の恵みは十分である。

①2 コリ 12：9

2Co 12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

申命記 4回

「約束の地に入る最初の試み（3）」

—不信仰に下る裁き—

申 1：34～46

1. はじめに

(1) モーセは、カナンの地に入国する前のイスラエル人のために五書を書いた。

①彼らは、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。

*自分たちは、どこから来たのか。

*自分たちにカナンの地を与えると約束してくれたのは、誰か。

*カナンの地で生きる目的は何か。

(2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）

①第1の説教：歴史の回顧（1：5～4：43）

②第2の説教：契約に基づく義務（4：44～26：19）

③第3の説教：祝福と呪いの宣言（27：1～29：1）

④第4の説教：契約条項のまとめ（29：2～30：20）

(3) 1章のアウトライン

①本書の目的（1：5）

②シナイ山からの出発（1：6～8）

③指導者の任命（1：9～18）

④カデシュ・バルネア事件（1：19～33）

⑤不信仰に下る裁き（1：34～46）

2. メッセージのアウトライン

(1) 裁きの宣言（1：34～37）

(2) 新しい計画（1：38～40）

(3) 不信仰の繰り返し（1：41～43）

(4) 不信仰の結果（1：44～46）

3. 結論

(1) 申命記で契約の更新が行われる理由

(2) 私たちへの適用

不信仰に下る裁きについて学ぶ。

I. 裁きの宣言（1：34～37）

1. 34～35 節

Deu 1:34 【主】はあなたがたの不平の声を聞いて怒り、誓って言われた。

Deu 1:35 「この悪い世代の者たちのうちには、わたしがあなたがたの父祖たちに与えると誓った、あの良い地を見る者は一人もいない。

(1) 「【主】はあなたがたの不平の声を聞いて怒り、」

①【主】は全知の神である。

②申 1：27

Deu 1:27 そして天幕の中で不平を言った。「【主】は私たちを憎んでおられるので、私たちをエジプトの地から連れ出して、アモリ人の手に渡し、私たちを根絶やしにしようとしておられるのだ。

③彼らは天幕の中で不平を言ったが、【主】は、すべて聞いておられた。

④不信仰な言葉は、【主】を怒らせた。

⑤詩 139：4

Psa 139:4 ことばが私の舌にのぼる前に なんと【主】よ／あなたはそのすべてを知っておられます。

(2) 「誓って言われた」

①誓いの内容

「この悪い世代の者たちのうちには、わたしがあなたがたの父祖たちに与えると誓った、あの良い地を見る者は一人もいない」

②約束の地が与えられるのは、アブラハム契約のゆえである。

③しかし、出エジプトを体験した世代（この悪い世代）は、そこに入れない。

*神は不従順な世代を裁かれるが、それは契約を破棄することではない。

④「誓う」はヘブル語で「シャバー」である。

*7回口に出すということから、誓うという意味になっている。

⑤ここでは、2種類の「誓い」が登場する。

*約束の地を与えるという誓い

*悪い世代の者たちは、あの良い地を見るができないという誓い

2. 36 節

Deu 1:36 ただエフンネの子カレブだけがそれを見ることができる。彼が踏んだ地を、わたしは彼とその子孫に与える。彼が【主】に従い通したからだ。」

(1) 例外は、エフンネの子カレブである。

①【主】に従い通したので、彼とその子孫は、約束の地に領地を持つ。

②民 14：37～38

Num 14:37 こうして、その地を悪く言いふらした者たちは、【主】の前に疫病で死んだ。

Num 14:38 しかし、あの地を偵察しに行った者のうち、ヌンの子ヨシュアと、エフenneの子カレブは生き残った。

(2) 土地の約束は、イスラエルの民に与えられている。

①その約束が取り消されることはない。

②しかし、その約束の祝福を体験するのは、信仰のある世代だけである。

③カレブは、このことを実証する人物である。

3. 37 節

Deu 1:37 【主】はあなたがたのゆえに、この私に対しても怒って言われた。「あなたも、そこに入れない。」

(1) モーセもそこに入れない。

①「この私に対しても」が強調点である。

②「あなたがたのゆえに」は、責任転嫁ではない。

* 民の不平不満に対して、モーセは感情的に反応し、罪を犯した。

③民 20 : 10～11（メリバの水事件）

Num 20:10 モーセとアロンは岩の前に集会を召集し、彼らに言った。「逆らう者たちよ。さあ、聞け。この岩から、われわれがあなたがたのために水を出さなければならないのか。」

Num 20:11 モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。すると、豊かな水が湧き出たので、会衆もその家畜も飲んだ。

II. 新しい計画（1 : 38～40）

1. 38 節

Deu 1:38 あなたに仕えているヌンの子ヨシュアは、そこに入ることができる。彼を力づけよ。彼がそこをイスラエルに受け継がせるからだ。

(1) ヨシュアが次世代のリーダーとなる。

①モーセの従者ヨシュアは、カレブとともに信仰を表明した。

②モーセの役割は、ヨシュアを力づけることである。

③ヨシュアは、イスラエルに約束の地を受け継がせる。

* 約束の地は、戦い取るものであると同時に、相続するものでもある。

* 人間の努力と神の主権が両立している。

2. 39 節

Deu 1:39 あなたがたが略奪されるだろうと言ったあなたがたの幼子たちや、今はまだ善悪をわきまえないあなたがたの子どもたちが、そこに入る。わたしが彼らにそこを与えるので、彼らはそこを所有するようになる。

(1) イスラエルの民は、不信仰の口実として子どもたちを利用した。

①彼らは、戦いが起これば子どもたちが被害を受けると言った。

(2) 神は、その子どもたちが、そこに入ると宣言された。

①「幼子たち」と「今はまだ善悪をわきまえない子どもたち」

＊神の前で責任を問われる年齢があるということが示唆されている。

＊それが何歳であるかについて、聖書は明言していない。

②責任能力のない子どもたちは、親の罪の責任を問われることはない。

③親たちは荒野に送り返され、そこで死ぬ。

④子どもたちは、約束の地に入る。

3. 40 節

Deu 1:40 あなたがたは向きを変え、葦の海の道を通して荒野に向かって旅立て。」

(1) 民は、カデシュ・バルネアから北上することを禁じられた。

①「向きを変え、葦の海の道を通して荒野に向かって旅立て」

②南に向かえということ。その道は、「葦の海」（紅海）に至る。

③南に向かえば、荒野に入る。

④民 14 : 25

Num 14:25 平地にはアマレク人とカナン人が住んでいるので、あなたがたは、明日、向きを変えてここを旅立ち、葦の海の道を通して荒野へ行け。」

＊東に向かうと、平地にアマレク人とカナン人が住んでいる。

＊民は、カデシュ・バルネアから南に下り、荒野を放浪する。

＊38 年後にモアブの野に着く。

＊これが、約束の地に入る第 2 の試みとなる。

Ⅲ. 不信仰の繰り返し（1 : 41～43）

1. 41 節

Deu 1:41 すると、あなたがたは私に答えて言った。「私たちは【主】に対して罪を犯した。私たちの神、【主】が命じられたとおりに、私たちは上って行って戦おう。」そして、それぞれ武具を身に帯びて、無謀にも山地に上って行こうとした。

(1) 民はすぐに自らの罪を告白したが、この悔い改めは表面的なものであった。

①真の悔い改めは、時間をかけて深く内省するところから生まれる。

- ②民は、【主】の助けがなくても勝てると考え、敵地に向かおうとした。
- ③最初の不信仰は、【主】の力に対する疑いであった。
- ④ここでの不信仰は、【主】の助けがなくても勝てるという思い上がりである。

2. 42～43 節

Deu 1:42 【主】は私に言われた。「彼らに言え。『上って行ってはならない。戦ってはならない。わたしはあなたがたのうちにいないからだ。あなたがたは敵に打ち負かされてはならない。』」

Deu 1:43 私があなたがたにこう告げたのに、あなたがたは聞かず、【主】の命に逆らい、不遜にも山地に上って行った。

- (1) 神は彼らに警告された。
 - ①神の助けなくして、この戦いに勝利することはできない。
 - ②神は彼らを助けない。
 - ③敵に打ち負かされてはならない。
- (2) 民は、モーセの言葉を見捨てた。
 - ①【主】の命に逆らった。
 - ②山地に上って行くのは、不遜な行為である。
 - ③神の御心でない戦いを戦うのは、不遜なことである。
 - ④信仰と不遜とは、別物である。

IV. 不信仰の結果（1：44～46）

1. 44 節

Deu 1:44 するとその山地に住んでいたアモリ人が出て来て、あなたがたを迎え撃ち、蜂が襲うようにあなたがたを追いかけて、あなたがたをセイルで打ち破り、ホルマにまで及んだ。

- (1) 民は、山地に住んでいたアモリ人に打ち負かされた。
 - ①彼らは、蜂が襲うように追い散らされ、セイルのホルマまで逃れた。
 - *この敗戦で、民の上に神の裁きが下っていることがよく分かる。
 - ②セイルとはエドムの地であるが、ホルマがどこかは分からない。
 - ③ネゲブ（南部の荒野）のどこかの地である。
 - *ネゲブは、後にユダ族とシメオン族が所有するようになる。

2. 45 節

Deu 1:45 あなたがたは戻って来て【主】の前で泣いたが、【主】はあなたがたの声を聞き入れず、耳を傾けられなかった。

(1) 民は【主】の前で泣いた。

- ①泣き声や涙が、【主】を動かすわけではない。
- ②【主】が求めておられるのは、従順な姿勢である。

3. 46 節

Deu 1:46 こうしてあなたがたは、実際にあなたがたとどまったとおり、長い期間カデシュにとどまった。

(1) どれくらいの期間カデシュにとどまったかは、民自身がよく知っている。

- ①モーセは、具体的な日数は上げていない。
- ②相当長い期間であったことは分かる。
- ③【主】への反逆は、時間とエネルギーの無駄遣いに終わる。
- ④神に反逆する人は、自分の人生を浪費しただけで死んでいく。

結論

1. 申命記で契約の更新が行われる理由

(1) 出エジプトを経験した世代は不従順のゆえに、祝福を失った。

- ①これはアブラハム契約が破棄されたということではない。
- ②その世代のイスラエルが祝福を失ったということである。

(2) 新しい世代がアブラハム契約の更新を受ける。

(3) この契約更新は、新世代に対する警告であると同時に祝福である。

- ①それぞれの世代が神に従順に生きる責任がある。
- ②先の世代の罪にもかかわらず、新しい希望が与えられている。

2. 私たちへの適用

(1) ヘブ 3：7～11

Heb 3:7 ですから、聖霊が言われるとおりです。／「今日、もし御声を聞くなら、

Heb 3:8 あなたがたの心を頑なにしてはならない。／荒野での試みの日に／神に逆らったときのように。

Heb 3:9 あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、／わたしを試し、／四十年の間、わたしのわざを見た。

Heb 3:10 だから、わたしはその世代に憤って言った。／『彼らは常に心が迷っている。／彼らはわたしの道知らない。』

Heb 3:11 わたしは怒りをもって誓った。／『彼らは決して、わたしの安息に入れない。』

申命記 5回

「カデシュ・バルネアからセイル山までの移動」

申 2：1～8

1. はじめに

(1) イスラエルの民は、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。

- ①自分たちは、どこから来たのか。
- ②自分たちにカナン之地を与えると約束してくれたのは、誰か。
- ③カナン之地で生きる目的は何か。

(2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）

- ①第1の説教：歴史の回顧（1：5～4：43）
- ②第2の説教：契約に基づく義務（4：44～26：19）
- ③第3の説教：祝福と呪いの宣言（27：1～29：1）
- ④第4の説教：契約条項のまとめ（29：2～30：20）

(3) 2章のアウトライン

- ①カデシュ・バルネアからセイル山まで（2：1～8）
- ②モアブとアンモンを迂回（2：9～25）
- ③ヘシュボンの王シホンに対する勝利（2：26～37）

2. メッセージのアウトライン

- (1) 新しい出発（2：1～3）
- (2) エサウの子孫への配慮（2：4～6）
- (3) 神の守り（2：7～8）

3. 結論

- (1) 申 2：7 と詩 23：1 の対比
- (2) エサウに対する約束から学ぶ教訓

カデシュ・バルネアからセイル山までの移動について学ぶ

I. 新しい出発（2：1～3）

1. 1節

Deu 2:1 それから、私たちは向きを変え、【主】が私に告げられたように葦の海の道を荒野に向かって旅立ち、長らくセイル山の周りを移動していた。

(1) ここから、モーセによる勧告のメッセージではなく、歴史の記録に入る。

①主語の「私たち」は、これが歴史的出来事の記録であることを示している。

(2) 「私たちは向きを変え、【主】が私に告げられたように葦の海の道を荒野に向かって旅立ち、」

①申 1：40 の命令

Deu 1:40 あなたがたは向きを変え、葦の海の道を通して荒野に向かって旅立て。」

②カデシュ・バルネアから南に向かう。

③紅海まで行き、次に東に向かう。

(3) 「長らくセイル山の周りを移動していた」

①申 1：46 には、「長い期間」という言葉があった。

Deu 1:46 こうしてあなたがたは、実際にあなたがたとどまったとおり、長い期間カデシュにとどまった。

②「長い期間」（申 1：46）と「長らく」（申 2：1）の違い

③ヘブル語では、ともに「ラブ」である。

④前者は恐らく数週間、後者は 38 年間である。

(4) 訳文の比較

「長らくセイル山の周りを移動していた」（新改訳 2017）

「長い間セイルの山地を巡った」（新共同訳）

「日久しくセイル山を行きめぐっていたが、」（口語訳）

「長いことセイル山のあたりをさまよったあげく、」（リビングバイブル）

①これは、エドムの地にあるセイル山の周辺で遊牧生活をしたということ。

②高地なので、移動するのは容易でない。

③セイルの山地は、エサウの領地である（創 36：8）

Gen 36:8 それでエサウはセイルの山地に住んだ。エサウとは、エドムのことである。

(5) モーセは、セイル山の周りを移動したことに関しては、詳細を記していない。

①それは、意味のない期間、失われた 38 年間だからであった。

②しかし、神の約束は変わらない。

③神は、イスラエルの新しい世代を約束の地に導かれる。

2. 2～3 節

Deu 2:2 【主】は私にこう言われた。

Deu 2:3 「あなたがたは長い間この山の周りを移動してきたが、北の方に向きを変えよ。」

- (1) 38 年後に新しい命令が下った。
 - ①ここでの「長い間」も、ヘブル語の「ラブ」である。
 - ②民は、セイル山の周りを、西に、南に、東に、目的もなくさ迷っていた。
- (2) 「北の方に向きを変えよ」
 - ①ここから再び、カナンの地に向かう旅が始まる。
 - ②イスラエルの民は、エドムの地の東の境界線を北上して行く。

II. エサウの子孫への配慮 (2:4~6)

1. 4 節

Deu 2:4 民に命じて言え。あなたがたは、セイルに住んでいるエサウの子ら、あなたがたの同族の領土内を通ろうとしている。彼らはあなたがたを恐れるであろう。ただし、あなたがたは十分に注意せよ。

- (1) セイルには、エサウの子孫が住んでいた。
 - ①エドム人は、エサウの子孫である。
 - ②イスラエル人は、ヤコブの子孫である。
 - ③両者は、兄弟関係にある。
- (2) エドムの地を通過する際に、戦争が起こる危険性があった。
 - ①一番考えられる可能性は、水争いである。
 - ②この地方の年間降雨量は、たった 125 ミリ（東京は 1800 ミリ以上）。
 - ③エドム人が大規模な民族移動を恐れるのは、当然のことである。
*イスラエル人の人口は、200 万人以上いたと思われる。
- (3) 神は、エドム人の心を理解して、注意深く行動するように命じた。
 - ①エドムの地の東側を通過し、領土に侵入しないように。
 - ②戦いを仕掛けないように。

2. 5 節

Deu 2:5 彼らに戦いを仕掛けてはならない。わたしは彼らの地を、足の裏で踏むほどさえも、あなたがたには与えない。わたしはエサウにセイルの山を、彼の所有地として与えたからである。

- (1) 戦いを仕掛けてはならない理由
 - ①エドムの地は、イスラエルに与えられたものではない。
 - ②セイルの山は、エサウとその子孫に所有地として与えられている。

③神は、すべての民の上に、またすべての領地の上に、主権を持っておられる。

④40年間荒野を放浪してきた民は、すぐにこの命令に従った。

3. 6節

Deu 2:6 食物は彼らから金で買って食べ、水も彼らから金で買って飲まなければならない。

(1) 食物と水は、彼らから買う。

①戦争を起こさないためである。

②水を買うとは、井戸を掘る権利も含むと考えられる。

(2) しかしエドム人は、イスラエルがその地を通過することさえ拒否した。

①民 20 : 19～21

Num 20:19 イスラエルの子らはエドムに言った。「私たちは大路を上って行きます。私たちと私たちの家畜があなたの水を飲むことがあれば、その代価を払います。歩いて通り過ぎるだけですから、何事でもないでしょう。」

Num 20:20 しかし、エドムは、「通ってはならない」と言って、強力な大軍勢を率いて彼らを迎え撃つために出て来た。

Num 20:21 こうして、エドムはイスラエルにその領土を通らせることを拒んだので、イスラエルは彼のところから向きを変えた。

Ⅲ. 神の守り (2 : 7～8)

1. 7節

Deu 2:7 事実、あなたの神、【主】はあなたのしたすべてのことを祝福し、この広大な荒野でのあなたの旅を見守っていたのだ。この四十年の間、あなたの神、【主】はあなたとともにいて、あなたには何一つ欠けたものがなかった。」

(1) 「【主】はあなたのしたすべてのことを祝福し、」

①【主】は、イスラエルの民の「手の業」（新共同訳）を祝福された。

②食糧や水は、必要なときに買うことができた。

③家畜の頭数が増えた（民 32 : 1）。

Num 32:1 ルベン族とガド族は、多くの家畜を持っていた。それは、おびただしい数であった。彼らがヤゼルの地とギルアデの地を見ると、その場所は家畜に適した場所であった。

④また、宿営した場所で農業を営み、富を増やしたことであろう。

⑤さらに、荒野で出会うキャラバン隊と交易し、富を増やしたことであろう。

(2) 「この四十年の間、あなたの神、【主】はあなたとともにいて、あなたには

何一つ欠けたものがなかった」

- ①【主】は40年の間、イスラエルの民の旅を見守ってくださった。
- ②【主】はイスラエルの民とともにおられた。
- ③イスラエルの民には、何一つ欠けたものがなかった。
- ④それゆえ、エドムと戦わなくてもよい。

2. 8節

Deu 2:8 それで私たちは、セイルに住むエサウの子孫である私たちの同族から離れ、アラバへの道から離れ、エイラトからも、またエツヨン・ゲベルからも離れて進んで行った。／そして、私たちは向きを変えて、モアブの荒野への道を進んで行った。

(1) イスラエルの民は、エドムの地を通過することを諦めた。

①申 2:8 (新共同訳)

Deu 2:8 我々はセイルに住む親族エサウの子孫を離れ、エイラトとエツヨン・ゲベルからアラバを走る道を避けて向きを変え、モアブの荒れ野に通ずる道を通った。

②エドムを通過する道を避け、その東の道を通った。

*エドムの東の道が、「モアブの荒野に通ずる道」である。

*エイラト＝エツヨン・ゲベル（アカバ湾の港町）

*エツヨン・ゲベルは後にエイラトと呼ばれるようになる。

③今イスラエルの民は、モアブの野にあってモーセの説教を聞いている。

結論

1. 申 2:7 と詩 23:1 の対比

(1) 申 2:7

Deu 2:7 事実、あなたの神、【主】はあなたのしたすべてのことを祝福し、この広大な荒野でのあなたの旅を見守っていたのだ。この四十年の間、あなたの神、【主】はあなたとともにいて、あなたには何一つ欠けたものがなかった。」

(2) 詩 23:1

Psa 23:1 【主】は私の羊飼い。／私は乏しいことはありません。

(3) モーセは40年の旅を総括し、「何一つ欠けたものがなかった」と告白する。

(4) 詩 23篇は、ダビデが晩年になって詠んだ詩篇である。

①ダビデも人生を総括し、「私は乏しいことはありません」と告白する。

(5) 神は、贅沢品を与えることはしない。

(6) しかし、生活の必需品は与えてくださる。

(7) ヘブ 13:5

Heb 13:5 金銭を愛する生活をせずに、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない」と言われたからです。

2. エサウに対する約束から学ぶ教訓

(1) 創 36 : 6～8

Gen 36:6 エサウは、その妻たち、息子と娘たち、その家のすべての者、その群れとすべての家畜、カナンの地で得た全財産を携え、弟ヤコブから離れて別の地へ行った。

Gen 36:7 一緒に住むには所有する物が多すぎて、彼らの群れのために寄留していた地は、彼らを支えることができなかったのである。

Gen 36:8 それでエサウはセイルの山地に住んだ。エサウとは、エドムのことである。

- ①ヤコブは長子の権利を手に入れ、約束の地を相続する約束を得た。
- ②エサウは、セイルの山地に移り住んだ。
- ③神はその地を、エサウとその子孫に与えた。
- ④この地は岩場で、現在ペトラがある場所である。
- ⑤イスラエルの民は、この地に侵入することが許されなかった。

(2) 使 17 : 26

Act 17:26 神は、一人の人からあらゆる民を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、住まいの境をお定めになりました。

- ①神は、それぞれの民のために国境を定めておられる。
- ②人類が経験してきた戦争は、そのほとんどが領土争いである。
- ③人類が神の主権に従うなら、平和が訪れる。

(3) イスラエルの民への励まし

- ①神は、エサウに対する約束をお守りになる。
- ②それならば、自分たちに与えられた約束は、真実なものである。
- ③自分たちは契約の民である。
- ④カナン征服戦争は、道徳的、倫理的性格を宿している。

*カナン人の罪を裁くための戦争である。

*それゆえ、時には「聖戦」と呼ばれる（申7章）。

(4) 1テモ 6 : 6～9

1Ti 6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそが、大きな利益を得る道です。

1Ti 6:7 私たちは、何もこの世に持って来なかったし、また、何かを持って出ることでもできません。

1Ti 6:8 衣食があれば、それで満足すべきです。

1Ti 6:9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑と罠と、また人を滅びと破滅に沈める、愚かで有害な多くの欲望に陥ります。

申命記 6 回
「モアブとアンモンを迂回」
申 2 : 9～25

1. はじめに

- (1) イスラエルの民は、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。
 - ①自分たちは、どこから来たのか。
 - ②自分たちにカナン之地を与えると約束してくれたのは、誰か。
 - ③カナン之地で生きる目的は何か。

- (2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）
 - ①第 1 の説教：歴史の回顧（1 : 5～4 : 43）
 - ②第 2 の説教：契約に基づく義務（4 : 44～26 : 19）
 - ③第 3 の説教：祝福と呪いの宣言（27 : 1～29 : 1）
 - ④第 4 の説教：契約条項のまとめ（29 : 2～30 : 20）

- (3) 2 章のアウトライン
 - ①カデシュ・バルネアからセイル山まで（2 : 1～8）
 - ②モアブとアンモンを迂回（2 : 9～25）
 - ③ヘシュボンの王シホンに対する勝利（2 : 26～37）

- (4) モアブ人とアンモン人の起源（創 19 : 36～38）
 - ①ロトは、アブラハムの甥である。
 - ②ロトの 2 人の娘は父親によって身ごもった。
 - ③姉が産んだ子は、モアブと名づけられた。モアブ人の先祖。
 - ④妹が産んだ子は、ベン・アミと名づけられた。アンモン人の先祖。
 - ⑤モアブ人とアンモン人は、イスラエル人の親戚である。

2. メッセージのアウトライン

- (1) モアブを迂回するイスラエルの民（2 : 9～13）
- (2) アンモンを迂回するイスラエルの民（2 : 14～25）

3. 結論

- (1) 聖書の靈感
- (2) 土地の所有に関する【主】の主権

モアブとアンモンの迂回について学ぶ

I. モアブを迂回するイスラエルの民（2：9～13）

1. 前回のメッセージの最後の聖句（申 2：8）

Deu 2:8 それで私たちは、セイルに住むエサウの子孫である私たちの同族から離れ、アラバへの道から離れ、エイラトからも、またエツヨン・ゲベルからも離れて進んで行った。／そして、私たちは向きを変えて、モアブの荒野への道を進んで行った。

(1) エサウの子孫であるエドム人の地から離れた。

①エドムの地を東に迂回し、モアブ人の地に近づいた。

②[地図表示](#)

2. 9 節

Deu 2:9 【主】は私に言われた。「モアブに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない。あなたには、その地を所有地として与えない。わたしはアルをロトの子孫に所有地として与えたからである。

(1) 「モアブに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない」

①モアブ人は、ロトの子孫である。

②イスラエルの民は、モアブに対しても戦争を避けるように命じられた。

(3) 「あなたには、その地を所有地として与えない。わたしはアルをロトの子孫に所有地として与えたからである」

①その理由は、モアブの地はイスラエルのものではないからである。

②【主】をその地を、ロトの子孫に与えておられた。

③アルという町の名が、モアブの地の代名詞として使われている。

④アルは、モアブの国境の町である（民 21：15）。

Num 21:15 アルの定住地に達する谷川の支流は、／モアブの領土を支えている。」

⑤エドムの地と同様に、モアブの地にも敬意を表する義務がある。

3. 10～11 節

Deu 2:10 ——以前そこにはエミム人が住んでいた。アナク人のように大きくて背の高い民で、数も多かった。

Deu 2:11 アナク人と同じく彼らもレファイムであると見なされていた。モアブ人は彼らをエミム人と呼んでいた。

(1) 申 2：10～12 は、物語の流れとは関係のない挿入句である。

①モーセより後の編集者が、補足説明を加えている。

②この加筆は、カナンの地征服後に行われたと思われる（次の 12 節を参照）。

③挿入句の目的は、モアブ人とエドム人が先住民に勝利した理由を示すため。

(2) 申 2 : 10~11 は、モアブ人がエミム人との戦いに勝利した記録である。

①モアブ人は、その地に住んでいたエミム人を征服した。

*エミム人は、大きくて背が高く、数も多かった。

*エミムとは、「恐ろしい」という意味である。

*エミム人は、アナク人のように巨大であった。

*エミム人は、その巨大さのゆえに、レファイム人だと見なされていた。

②アナク人もレファイム人と見なされていた。

*レファイム人は、背が高い民として知られていた。

*創 15 : 20 にその名が出て来るが、詳しくは分からない。

③アナク人とエミム人＝レファイム人のような民族

④モアブ人は、この長身で強力な民をその地から追い出すことができた。

⑤追い出せた理由は、【主】がその地をモアブ人に与えておられたからである。

3. 12 節

Deu 2:12 セイルには以前フリ人が住んでいたが、エサウの子孫がこれを追い払い、これを根絶やしにし、彼らに代わって住むようになった。ちょうど、イスラエルが【主】の下さった所有地に対してしたようにである――

(1) 申 2 : 12 は、エサウの子孫（エドム人）がフリ人に勝利した記録である。

①彼らは、先住民であるフリ人を追い出し、その地を征服することができた。

(2) モアブ人とエドム人は、ともに戦いに勝利することができた。

①【主】がそれぞれの地を彼らの所有として与えてくださったからである。

②両者が勝利した理由は、同じである。

③それなら、イスラエル人もカナン人との戦いに勝利できるはずである。

④この確信に立って、イスラエルの民は立って約束の地に向かうのである。

(3) 「ちょうど、イスラエルが【主】の下さった所有地に対してしたように」

①この聖句により、挿入句の部分がカナン征服後に書かれたことが分かる。

4. 13 節

Deu 2:13 今、立ってゼレデ川を渡れ。」そこで私たちはゼレデ川を渡った。

(1) ゼレデ川とは、東から死海の南端に流れ込む約 50 キロのワジである。

①地図表示

②この溪谷は、エドムとモアブの境界線を東西に走っている。

③この溪谷を渡ると、そこはモアブの地である。

(2) 新しい世代のイスラエルは、勝利の確信を持ってその溪谷を渡った。

- ①【主】にあって不可能はないという確信である。
- ②神の御心に叶っているなら、必ず勝利するという確信である。
- ③新しい世代は、信仰によって行動を開始した。
- ④私たちも、霊的ゼレデ川を渡ろうではないか。

II. アンモンを迂回するイスラエルの民（2：14～25）

1. 14～15 節

Deu 2:14 カデシュ・バルネアを出てからゼレデ川を渡るまでの期間は、三十八年であった。それまでに、その世代の戦士たちはみな宿営のうちから絶えてしまっていた。【主】が彼らについて誓われたとおりであった。

Deu 2:15 確かに【主】の御手が彼らに下り、彼らをかき乱し、宿営のうちから絶やされたのである。

(1) カデシュ・バルネアからゼレデ川を渡るまでの期間は、38年間であった。

- ①これは、荒野の放浪期間である。
- ②これは、出エジプトの世代が死に絶えるために必要とされた期間である。
- ③これは、【主】が誓われたことが成就するために必要とされた期間である。
- ④【主】への従順は、人生を単純化する最善の方法である。

(2) 「確かに【主】の御手が彼らに下り、彼らをかき乱し、…」

- ①出エジプトの世代は、自然死を迎えたのではない。
- ②彼らは、神の裁きによって滅びた。
- ③「彼らをかき乱し」とは、敵と戦えない状態か、仲間打ちの状態を指す。

2. 16～19 節

Deu 2:16 戦士たちがみな民の間から絶えたとき、

Deu 2:17 【主】は私に告げられた。

Deu 2:18 「あなたは今日、モアブの領土アルを通ろうとしている。

Deu 2:19 アンモン人の近くに行くが、彼らに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない。あなたにはアンモン人の地を所有地として与えない。わたしはそれをロトの子孫に所有地として与えたからである。

(1) イスラエルの民は、モアブの領土アルの東側を北上しようとしている。

- ①モアブの東側には、アンモン人の地がある。
- ②アンモン人は、ロトの息子ベン・アミの子孫である。

③モアブ人とアンモン人は、イスラエル人の親戚である。

(2) イスラエル人は、アンモン人に戦いを仕掛けてはならない。

①その地は、【主】がロトの子孫であるアンモン人に与えられたものである。

3. 20～21 節

Deu 2:20 —そこもレファイムの地だと見なされていた。以前はレファイムがそこに住んでいて、アンモン人は彼らをザムズミム人と呼んでいた。

Deu 2:21 彼らは、アナク人のように大きくて背が高い民で、数も多かった。しかし【主】がこれを滅ぼされたので、アンモン人がこれを追い払い、彼らに代わって住んだ。

(1) 申 2：20～23 は、2 つ目の挿入句である。

①アンモン人は、レファイム人を追い払った。

②アンモン人は、レファイム人をザムズミム人と呼んでいた。

③彼らは、アナク人のように大きくて背が高く、数も多かった。

(2) アンモン人が勝利できた理由は、【主】が働かれたからである。

①これもまた、イスラエルの民にとって励ましとなった。

②民 13：28

Num 13:28 ただ、その地に住む民は力が強く、その町々は城壁があつて非常に大きく、そのうえ、そこでアナクの子孫を見ました。

*かつては、巨人が住んでいることが、恐れの原因となった。

*【主】の助けがあれば、いかなる巨人にも勝利できる。

*私たちへの挑戦であり、励ましである。

4. 22～23 節

Deu 2:22 それは、セイルに住んでいるエサウの子孫のために、主が彼らの前からフリ人を滅ぼされたのと同じである。彼らはフリ人を追い払い、彼らに代わって住み、今日に至っている。

Deu 2:23 また、ガザ近郊の村々に住んでいたアビム人については、カフトルから出て来たカフトル人が根絶やしにし、彼らに代わって住んだのであった——

(1) 同じことがエサウの子孫に起こった。

①彼らは、先住民フリ人を追い払い、セイルに住むようになった。

(2) もう一つの例は、ガザ近郊での住民交代劇である。

①そこには、アビム人が住んでいた。カナン人の一部族である。

②カフトル人が、アビム人に代わって住んだ。

③カフトル人とは、ペリシテ人であろう。

5. 24～25 節

Deu 2:24 立ち上がって出発せよ。アルノン川を渡れ。見よ、わたしはヘシュボンの王アモリ人シホンとその国を、あなたの手に渡す。占領し始めよ。彼と戦いを交えよ。

Deu 2:25 今日から、わたしは天下のあらゆる民に、あなたに対するおののきと恐れを抱かせる。彼らはあなたのうわさを聞いて震え、あなたの前でもだえる。」

(1) 「立ち上がって出発せよ。アルノン川を渡れ」

①アルノン川は、東から西に流れ、死海に注ぎ込む川である。

②地図表示

③アルノン川を渡ると、アモリ人の地に近づく。

④首都はヘシュボンである。

⑤ヘシュボンの王は、アモリ人シホンである。

(2) 「…その国を、あなたの手に渡す。占領し始めよ。彼と戦いを交えよ」

①アモリ人の国とは、ギルアデと呼ばれる地である。

②ギルアデは、アブラハムへの最初の約束には含まれていなかった。

③しかし【主】は、ギルアデをイスラエルの民に渡すと言われた。

④ヘシュボンの王シホンとの戦いは、約束の地征服の第一歩である。

*カナンの地征服のための予行演習である。

(3) 「今日から、わたしは天下のあらゆる民に、あなたに対するおののきと恐れを抱かせる」

①民にとって最大の武器は、【主】から来る「おののきと恐れ」である。

②イスラエルの敵は、戦意喪失状態に陥る。

結論

1. 聖書の靈感

(1) 靈感とは、「神の息吹が吹き込まれた」という意味である。

(2) 著者が記録を残す際に、神が守り導かれたという意味である。

(3) 2テモ 3:16

2Ti 3:16 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。

(4) 完成した書の中に誤りはないという保証である。

(5) モーセ以外の編集者が加筆した部分も、靈感を受けている。

2. 土地の所有に関する【主】の主権

(1) 出 20 : 15

Exo 20:15 盗んではならない。

①すべての罪の根源は、この聖句にある。

②人は、神のものを盗み、他人のものを盗む。

(2) 箴 23 : 10

Pro 23:10 昔からの地境を移してはならない。／みなしごの畑に入り込んではいない。

(3) 申 2 : 9

Deu 2:9 【主】は私に言われた。「モアブに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない。あなたには、その地を所有地として与えない。わたしはアルをロトの子孫に所有地として与えたからである。

(4) 隣人の権利の尊重

①動産、不動産、知的財産など、あらゆるものが含まれる。

②良好な人間関係の基本である。

申命記 7 回

「ヘシュボンの王シホンに対する勝利」

申 2 : 26～37

1. はじめに

(1) イスラエルの民は、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。

- ①自分たちは、どこから来たのか。
- ②自分たちにカナン之地を与えると約束してくれたのは、誰か。
- ③カナン之地で生きる目的は何か。

(2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）

- ①第 1 の説教：歴史の回顧（1 : 5～4 : 43）
- ②第 2 の説教：契約に基づく義務（4 : 44～26 : 19）
- ③第 3 の説教：祝福と呪いの宣言（27 : 1～29 : 1）
- ④第 4 の説教：契約条項のまとめ（29 : 2～30 : 20）

(3) 2 章のアウトライン

- ①カデシュ・バルネアからセイル山まで（2 : 1～8）
- ②モアブとアンモンを迂回（2 : 9～25）
- ③ヘシュボンの王シホンに対する勝利（2 : 26～37）

(4) 前回の復習（申 2 : 24）

Deu 2:24 立ち上がって出発せよ。アルノン川を渡れ。見よ、わたしはヘシュボンの王アモリ人シホンとその国を、あなたの手に渡す。占領し始めよ。彼と戦いを交えよ。

- ①エドム人、モアブ人、アンモン人とは戦わない。
- ②ヘシュボンの王アモリ人シホンとは戦う。
- ③ここから約束の地征服の戦いが始まる。
- ④これは、40 年遅れの戦いである。
- ⑤これは、イスラエルの新しい世代が戦う戦いである。
- ⑥彼らは、ヨルダン川を渡る前に【主】による勝利を経験する必要があった。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 友好のことば（2 : 26～29）
- (2) 心を頑なにするヘシュボンの王シホン（2 : 30～31）
- (3) 【主】による勝利（2 : 32～37）

3. 結論

- (1) ヘシュボンの王シホンとエジプトのファラオ
- (2) 民族の記憶

ヘシュボンの王シホンに対する勝利について学ぶ

I. 友好のことば（2：26～29）

1. 26 節

Deu 2:26 そこで私は、ケデモテの荒野からヘシュボンの王シホンに使者たちを遣わし、次のような友好のことばを伝えた。

*地図表示

- (1) アルノン川を渡ると、アモリ人の地に入る。
 - ①アモリ人の地は、元はモアブ人の町であった。
 - ②アモリ人の王シホンがこれを略奪した。
 - ③首都ヘシュボンは都市国家で、ヨルダン川の東方約 30 キロに位置していた。
 - *エルサレムからは、東に約 60 キロ離れた地にあった
 - *エリコとほぼ同じ緯度で、約 30 キロ離れている。
 - *アルノン川とヤボク川の間に位置し、幹線道路に近かった。
 - ④ヘシュボンは、イスラエルの民の北上を妨害する位置にあった。
- (2) モーセは使者たちを遣わし、ヘシュボンの王シホンに友好のことばを伝えた。
 - ①戦争は、回避できるなら、それが一番である。
 - ②戦争を開始するためには、正当な理由が必要である。
 - ③シホンが平和的解決を拒否した段階で、初めて戦争が正当化される。
 - ④**マタ 10：12～15**

Mat 10:12 その家に入るときには、平安を祈るあいさつをなさい。

Mat 10:13 その家がそれにふさわしければ、あなたがたの祈る平安がその家に来るようにし、ふさわしくなければ、その平安があなたがたのところに返って来るようにしなさい。

Mat 10:14 だれかがあなたがたを受け入れず、あなたがたのことばに耳を傾けないなら、その家や町を出て行くときに足のちりを払い落とすなさい。

Mat 10:15 まことに、あなたがたに言います。さばきの日には、ソドムとゴモラの地のほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。

2. 27～28 節

Deu 2:27 「あなたの土地を通らせてください。私は大路だけを通り、右にも左にもそれません。

Deu 2:28 食べ物は金で私に売ってください。それを食べます。水も金を取って私に与えてください。それを飲みます。徒歩で通らせてくださるだけでよいのです。

(1) 大路だけを通り、右にも左にもそれない。

①農作物や家畜を略奪することはない。

②民 20 : 17

Num 20:17 どうか、あなたの土地を通らせてください。私たちは、畑もぶどう畑も通りません。井戸の水も飲みません。私たちは『王の道』を行き、あなたの領土を通過するまでは、右にも左にもそれません。」

③大路とは、「王の道」と呼ばれた通商路である。

④アジア大陸とエジプトを結ぶ通商路が 2 つあった。

* 「海沿いの道」

* 「王の道」

(2) 食物と水は、代価を払って買う。

①自分たちが願っているのは、徒歩で通過することだけある。

3. 29 節

Deu 2:29 セイルに住んでいるエサウの子孫や、アルに住んでいるモアブ人が私にしたようにしてください。そうして、私がヨルダン川を渡り、私たちの神、【主】が私たちに与えようとしておられる地に行けるようにしてください。」

*地図表示

(1) 自分たちは、すでにエドムの地を通過してきた。

①エドムは、領地の中を通過することは許可しなかった。

②東の境界線に沿って北上することは許した。

③エドムとの戦争は回避された。

(2) さらに、自分たちは、モアブの地も平和的に通過して来た。

①アルに住んでいるモアブ人も、戦争を仕掛けなかった。

(3) 自分たちの目的地は、ヨルダン川の西岸である。

①そこは、【主】がイスラエルの民に与えると約束された地である。

②それゆえ、自分たちにはアモリ人の土地を占領する意図はない。

II. 心を頑なにするヘシュボンの王シホン (2 : 30～31)

1. 30 節

Deu 2:30 しかし、ヘシュボンの王シホンは、私たちがどうしても通らせようとはしなかった。それは今日見るとおり、彼をあなたの手に渡すために、あなたの神、【主】が彼の心を頑なにし、彼を強気にされたからである。

(1) シホンは、モーセの友好的な提案を拒否した。

①彼の心には、傲慢な思いがあった。

＊【主】に対する傲慢

＊契約の民イスラエルに対する傲慢

②その思いが、行動となって現れた。

(2) 【主】は歴史の導き手である。

①【主】は、シホンの心にあった傲慢な思いを確認（放置）された。

②シホンは、生存する可能性を自ら放棄した。

③シホンはイスラエルの民と戦い、敗北する。

2. 31 節

Deu 2:31 【主】は私に言われた。「見よ、わたしはシホンとその地とをあなたの手に渡し始めている。占領し始めよ。その地を所有せよ。」

(1) シホンの上に下る神の裁きは、すでに始まっている。

①戦いの主役は、神である。

②神の裁きの業は、すでに始まっている。

(2) 神が始めたことを完成させるのが、イスラエルの民の使命である。

①ゴールは、アモリ人の土地の征服である。

②その地は、イスラエルの民に与えられている。

Ⅲ. 【主】による勝利（2：32～37）

1. 32～33 節

Deu 2:32 シホンとそのすべての兵が、私たちが迎え撃つためヤハツに出て来たとき、

Deu 2:33 私たちの神、【主】は彼を私たちの手に渡された。私たちは彼とその子たちとそのすべての兵を討った。

(1) シホンとその軍勢はイスラエルの民を迎え打つために出て来た。

①神の御手が民とともにあったために、民は大勝利を収めることができた。

(2) 「私たちは彼とその子たちとそのすべての兵を討った」

①この戦いは、聖絶を目的とする戦いである（34～35 節で明らかになる）。

- ②アモリ人は、完全に裁かれなければならない民である。
- ③イスラエルの民は、アモリ人に配慮を示してはならない。
- ④この土地は、かつてモアブ人が所有していた。
- ⑤アモリ人は、王シホンの指揮によってモアブ人を追い出し、土地を略奪した。
- ⑥神は、そこまでは許されたが、イスラエルを追い出すことは許さなかった。
- ⑦その地は、イスラエルのものとなる。

2. 34～35 節

Deu 2:34 そのとき、私たちは彼のすべての町を攻め取り、すべての町、男、女および子どもを聖絶し、一人の生存者も残さなかった。

Deu 2:35 私たちは、攻め取った町々での略奪物のほかは、家畜を分捕っただけであった。

(1) 聖絶の対象

- ①人が住んでいる町はすべて
- ②男、女および子どものすべて
- ③一人の生存者も残さなかった。

(2) イスラエルの分捕り品

- ①町々での略奪物と家畜だけ

3. 36～37 節

Deu 2:36 アルノンの溪谷の縁にあるアロエル、およびその溪谷の中の町からギルアデに至るまで、私たちの力が及ばない町は一つもなかった。私たちの神、【主】がそれらをみな私たちの手に渡されたのである。

Deu 2:37 ただ、あなたはアンモン人の地、ヤボク川の全岸と山地の町々には、私たちの神、【主】が命じられたとおりに近寄らなかった。

(1) アルノン溪谷の縁にあるアロエルからギルアデに至るまで、完璧に勝利した。

- ①「私たちの力が及ばない町は一つもなかった」（新改訳 2017）
- ②「there was not a city too high for us」（ASV）
- ③壁が高すぎる町はなかったという意味である。
- ④第一世代は、カナン人の町々は「壁が高すぎる」と言っておびえた。
- ⑤第二世代は、「壁が高すぎる町はなかった」と言って勝利した。

(2) ただし、アンモン人の地には近寄らなかった。

- ①アンモン人はロトの子孫であり、親戚である。
- ②その地は、アンモン人に与えられている。
- ③イスラエルの民は、【主】の命令に従った。

結論

1. ヘシュボンの王シホンとエジプトのファラオ

(1) 申 2 : 30

Deu 2:30 しかし、ヘシュボンの王シホンは、私たちをどうしても通らせようとはしなかった。それは今日見るとおり、彼をあなたの手に渡すために、あなたの神、【主】が彼の心を頑なにし、彼を強気にされたからである。

(2) 出 4 : 21

Exo 4:21 【主】はモーセに言われた。「あなたがエジプトに帰ったら、わたしがあなたの手に授けたすべての不思議を心に留め、それをファラオの前で行え。しかし、わたしが彼の心を頑なにするので、彼は民を去らせない。

(3) 共通項

①シホンもファラオも、悔い改めの機会を与えられた。

*カナン人の場合は、罪が重いので、その機会は与えられない。

*カナン人は、無条件で裁きの対象となっていた。

②イスラエルの申し出を受け入れるだけで、滅びを免れることができた。

*その申し出は、無理難題ではない。

*極めて丁寧で、理屈に合った申し出である。

*「通過させて欲しい」と「去らせて欲しい」

③しかし彼らは、その申し出を拒否し、イスラエルの民に戦いを挑んだ。

*内面にある傲慢が行為となって現れた。

*神が「彼らの心を頑なにされた」とは、彼らの傲慢を確認（放置）されたということである。

④彼らは、滅びへの道を自ら選んだのである。

2. 民族の記憶

(1) 詩 135 : 8~12

Psa 135:8 主はエジプトの初子を／人から家畜に至るまで打たれた。

Psa 135:9 エジプトよ おまえの真ただ中に／主はしるしと奇跡を送られた。／ファラオとそのすべてのしもべらに。

Psa 135:10 主は多くの国々を打ち／力ある王たちを殺された。

Psa 135:11 アモリ人の王シホン バシヤンの王オグ／カナンのすべての王国を。

Psa 135:12 主は彼らの地をゆずりとして与えられた。／御民イスラエルにゆずりとして。

①エジプトに対する勝利

②アモリ人の王シホンに対する勝利

③バシヤンの王オグに対する勝利

④カナン人に対する勝利

(2) 詩 136 : 18～21

Psa 136:18 主は 力ある王たちを殺された。／主の恵みはとこしえまで。

Psa 136:19 アモリ人の王シホンを。／主の恵みはとこしえまで。

Psa 136:20 バシヤンの王オグを。／主の恵みはとこしえまで。

Psa 136:21 こうして 彼らの地をゆずりとして与えられた。／主の恵みはとこしえまで。

①バシヤンの王シホンに対する勝利は、民族の記憶となった。

②また、【主】を称える理由となった。

(3) 1 コリ 15 : 57～58

1Co 15:57 しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。

1Co 15:58 ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。

①主イエス・キリストにある勝利

*罪に対する勝利

*死に対する勝利

*悪魔に対する勝利

②それを記憶することが、良き奉仕のための力となる。

申命記 8 回
「バシヤンの王オグに対する勝利」
申 3 : 1～11

1. はじめに

- (1) イスラエルの民は、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。
 - ①自分たちは、どこから来たのか。
 - ②自分たちにカナン之地を与えると約束してくれたのは、誰か。
 - ③カナン之地で生きる目的は何か。
- (2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）
 - ①第 1 の説教：歴史の回顧（1 : 5～4 : 43）
 - ②第 2 の説教：契約に基づく義務（4 : 44～26 : 19）
 - ③第 3 の説教：祝福と呪いの宣言（27 : 1～29 : 1）
 - ④第 4 の説教：契約条項のまとめ（29 : 2～30 : 20）
- (3) 3 章のアウトライン
 - ①バシヤンの王オグに対する勝利（3 : 1～11）
 - ②征服した土地の分割（3 : 12～22）
 - ③約束の地に入れないモーセ（3 : 23～29）
- (4) ヘシュボンの王シホンとバシヤンの王オグは、ともにアモリ人の王である。
 - ①ヘシュボンの王シホンに対する勝利（2 : 26～37）
 - ②バシヤンの王オグに対する勝利（3 : 1～11）
 - ③内容は、よく似ている。
 - ④民族の記憶として常に心に留めるべき大いなる出来事である。
 - ⑤詩 136 : 18～21

Psa 136:18 主は 力ある王たちを殺された。／主の恵みはとこしえまで。

Psa 136:19 アモリ人の王シホンを。／主の恵みはとこしえまで。

Psa 136:20 バシヤンの王オグを。／主の恵みはとこしえまで。

Psa 136:21 こうして 彼らの地をゆずりとして与えられた。／主の恵みはとこしえまで。

2. メッセージのアウトライン

- (1) バシヤンの王オグとの戦い（3 : 1～7）
- (2) 2 人の王との戦いの要約（3 : 8～11）

3. 結論

(1) 勝利の理由

(2) 勝利の結果

バシヤンの王オグに対する勝利について学ぶ

I. バシヤンの王オグとの戦い（3：1～7）

1. 1 節

Deu 3:1 私たちはバシヤンへの道を上って行った。するとバシヤンの王オグとそのすべての兵は、エデレイで私たちを迎え撃つために出て来た。

(1) バシヤンは、現在のゴラン高原である。

- ①バシヤンは、ガリラヤ湖の北東に広がる高原地帯である。
- ②イスラエルがヨルダン川を渡って約束の地に入るルートからは外れている。
- ③しかし、この場所をそのまま放置しておくことは危険である。
- ④西に折れて川を渡ろうとすると、右翼を攻撃される可能性がある。
- ⑤そこでイスラエルの民は、バシヤンの地を制圧するために北に向かった。
- ⑥「私たちはバシヤンへの道を上って行った」というのは、正確な描写である。

(2) バシヤンの王はオグである。

- ①オグもまたアモリ人の王である（ヘシュボンの王シホンと同じ）。
- ②オグは巨人で、彼の王国は無敵だと思われていた（11 節参照）。
 - *今のところ、聖書以外にオグに関する情報はない。
- ③オグの軍勢は、エデレイでイスラエルを迎え撃つために出て来た。
 - *オグもまた傲慢であった。
 - *彼は、ヘシュボンの王シホンの敗北から教訓を学んでいなかった。
- ④エデレイは、ガリラヤ湖の南端から東に約 50 キロ入った所である。

2. 2 節

Deu 3:2 そのとき、【主】は私に言われた。「彼を恐れてはならない。わたしは、彼とそのすべての兵とその地を、あなたの手に渡している。あなたは彼に対して、ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホンにしたように行わなければならない。」

(1) 「彼を恐れてはならない」という 2 つの理由

- ①【主】は、オグとそのすべての兵とその地を、イスラエルの民に渡している。
- ②イスラエルの民は、ヘシュボンの王シホンに勝利したように、勝利する。

(2) シホンに対して勝利したばかりで、その記憶は生々しく残っている。

①申 2 : 31

Deu 2:31 【主】は私に言われた。「見よ、わたしはシホンとその地とをあなたの手に渡し始めている。占領し始めよ。その地を所有せよ。」

3. 3 節

Deu 3:3 こうして私たちの神、【主】は、バシヤンの王オグとそのすべての兵を私たちの手に渡されたので、私たちはこれを討ち、一人の生存者も残さなかった。

(1) この勝利は、【主】の力による勝利である。

①ヘシュボンの王シホンの場合と同じである。

(2) オグとの戦いも、聖絶の戦いである。

①それほど、アモリ人の罪が重かったということである。

②ヘシュボンに住んでいた民とバシヤンに住んでいた民の罪は、重かった。

4. 4～5 節

Deu 3:4 そのとき、私たちは彼のすべての町を攻め取った。私たちが取らなかった町は一つもなかった。取った町は六十、アルゴブの全地域であり、バシヤンのオグの王国であった。

Deu 3:5 これらはみな、高い城壁と門とかんぬきのある要害の町であった。このほか、城壁のない村も非常に多かった。

(1) イスラエルの民は、すべての町を攻め取った。

①攻め取った町は、60 あった。

②それ以外に、城壁のない村も非常に多かった。

③アルゴブの全地域＝バシヤン＝オグの王国

④60 も町があるということは、ここは人口の多い地域だということである。

⑤オグは、60 以上の自立した共同体を支配していた。

(2) 60 の町は、高い城壁と門とかんぬきで防御された要塞の町であった。

①門は複数形である。外門と内門があったということである。

②これらの町を征服できたのは、【主】の助けがあったからである。

③この勝利は、イスラエルの民を大いに励ました。

④戦いの本番は、これから始まる。

⑤彼らは、これからヨルダン川を渡って、カナンの地に入ろうとしている。

⑥そこには、高い城壁に守られた町がある。

5. 6～7 節

Deu 3:6 私たちはヘシュボンの王シホンにしたように、これらを聖絶した。そのすべての町、男、女および子どもを聖絶した。

Deu 3:7 ただし、すべての家畜と、町々での略奪物は私たちのものとした。

(1) ヘシュボンの王シホンに対する勝利（申 2：34～35）

Deu 2:34 そのとき、私たちは彼のすべての町を攻め取り、すべての町、男、女および子どもを聖絶し、一人の生存者も残さなかった。

Deu 2:35 私たちは、攻め取った町々での略奪物のほかは、家畜を分捕っただけであった。

①すべての町、男、女および子どもを聖絶した。

②家畜と町々での略奪物は、自分たちのものとした。

II. 2 人の王との戦いの要約（3：8～11）

1. 8～10 節

Deu 3:8 このようにして、そのとき私たちは、二人のアモリ人の王の手からヨルダンの川向こうを、アルノン川からヘルモン山まで取った。

Deu 3:9 ——シドン人はヘルモンをシルヨンと呼び、アモリ人はこれをセニルと呼んでいる——

Deu 3:10 すなわち、高原のすべての町、ギルアデの全土、バシヤンの全土、サルカおよびエデレイに及ぶ、バシヤンのオグの王国の町々である。

(1) イスラエルの民は、ヨルダン川の東側の土地を征服した。

①2 人のアモリ人の王とは、シホンとオグである。

②イスラエルの民は、アルノン川からヘルモン山まで、広大な地域を征服した。

③挿入句

*シドン人はヘルモンをシルヨンと呼んだ。

*アモリ人はヘルモンをセニルと呼んだ。

④広大な土地を征服したことは、イスラエルの民を大いに励ました。

2. 11 節

Deu 3:11 ——バシヤンの王オグはレファイムの唯一の生き残りであった。見よ。彼の寝台は鉄の寝台で、それはアンモン人のラバにあるではないか。その長さは規準のキュビトで九キュビト、その幅は四キュビトである——

(1) オグは、レファイムと呼ばれた巨人の最後の生き残りであった。

①彼が巨人であったことが、寝台のサイズで表現されている。

②長さ 9 キュビト（約 4m）、幅 4 キュビト（約 1.8m）

③寝台ではなく、棺だと考える学者もいる。

④鉄は、当時の貴金属である。すべて鉄で出来ていたと考える必要はない。

⑤これを黒色玄武岩と考える学者もいる。

(2) 恐らく、玄武岩に鉄で装飾を施した寝台であろう。

①寝台は、単に寝るためのものではない。

②祝宴時に、王の権威を誇示するために横たわるものでもある。

結論

1. 勝利の理由

(1) この勝利は、【主】の力による勝利である。

(2) 申 3 : 3

Deu 3:3 こうして私たちの神、【主】は、バシヤンの王オグとそのすべての兵を私たちの手に渡されたので、私たちはこれを討ち、一人の生存者も残さなかった。

①【主】とは、契約を結ぶ神、約束を守る神である。

②【主】は、イスラエルの神である。

③イスラエルの民は、【主】と契約関係にある。

(3) 私たちへの適用（ロマ 8 : 31～32）

Rom 8:31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

Rom 8:32 私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるでしょうか。

2. 勝利の結果

(1) イスラエルは、カナンの地に入る前に、ギルアデとバシヤンを征服した。

(2) ギルアデとバシヤンは、【主】がイスラエルの民に与えたものである。

(3) ギルアデ

①雅 6 : 5

Son 6:5 あなたの目を私からそらしておくれ。／それが私を引きつける。／あなたの髪は、ギルアデから下って来る／やぎの群れのようだ。

②エレ 8 : 22

Jer 8:22 乳香はギルアデにないのか。／医者はどこにいないのか。／なぜ、娘である私の民の傷は癒えなかったのか。

(4) バシヤン

①詩 22 : 12

Psa 22:12 多くの雄牛が私を取り囲み／バシヤンの猛者どもが私を囲みました。

②アモ 4 : 1

Amo 4:1 このことばを聞け。／サマリアの山にいるバシヤンの雌牛どもよ。／おまえたちは弱い者を虐げ、／貧しい者を迫害し、／自分の主人に／「何か持って来て、飲ませよ」と言っている。

(5) 私たちへの適用

①パウロ (2 テモ 4 : 8)

2Ti 4:8 あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。

②ヤコブ (ヤコ 1 : 12)

Jas 1:12 試練に耐える人は幸いです。耐え抜いた人は、神を愛する者たちに約束された、いのちの冠を受けるからです。

③ペテロ (1 ペテ 5 : 4)

1Pe 5:4 そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠をいただくことになります。

申命記 9 回
「征服した土地の分割」
申 3 : 12～22

1. はじめに

- (1) イスラエルの民は、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。
 - ①自分たちは、どこから来たのか。
 - ②自分たちにカナンの地を与えると約束してくれたのは、誰か。
 - ③カナンの地で生きる目的は何か。
- (2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）
 - ①第 1 の説教：歴史の回顧（1 : 5～4 : 43）
 - ②第 2 の説教：契約に基づく義務（4 : 44～26 : 19）
 - ③第 3 の説教：祝福と呪いの宣言（27 : 1～29 : 1）
 - ④第 4 の説教：契約条項のまとめ（29 : 2～30 : 20）
- (3) 3 章のアウトライン
 - ①バシヤンの王オグに対する勝利（3 : 1～11）
 - ②征服した土地の分割（3 : 12～22）
 - ③約束の地に入れないモーセ（3 : 23～29）
- (4) ヘシュボンの王シホンとバシヤンの王オグに対して勝利した。
 - ①次は、カナンの地征服のために以下のような準備に取り組む必要がある。
 - * 征服した土地の分割
 - * カナンの地征服戦争への備え
 - * リーダーシップの移行

2. メッセージのアウトライン

- (1) 征服した土地の分割（3 : 12～17）
- (2) 2 部族半への勧告（3 : 18～20）
- (3) ヨシュアへの権限委譲（3 : 21～22）

3. 結論

- (1) 民数記 32 章と申命記 3 章の対比
- (2) 勝利体験の習慣化

征服した土地の分割について学ぶ

I. 征服した土地の分割（3：12～17）

1. 12 節

Deu 3:12 この地を、そのとき私たちは占領した。アルノン川のほとりにあるアロエルの一部と、ギルアデの山地の半分と、その町々を私はルベン人とガド人に与えた。

(1) ヨルダン川の東の地が、ルベン族、ガド族、マナセの半部族に分与された。

①モーセは民 32 章の記録を回顧しつつ、土地の分割について再記述している。

(2) ルベン族とガド族への分与

①アロエルの一部と、ギルアデの山地の半分と、その町々

②地図表示

2. 13 節

Deu 3:13 ギルアデの残りとして、オグの王国であったバシヤンの全土はマナセの半部族に与えた。それはアルゴブの全地域で、そのバシヤンの全土はレファイムの地と呼ばれている。

(1) マナセの半部族への分与

①アルゴブの全地域

②そのバシヤンの全土は、レファイムの地と呼ばれている。

3. 14～15 節

Deu 3:14 マナセの子ヤイルは、ゲシュル人とマアカ人との国境までのアルゴブの全地域を取り、自分の名にちなんでバシヤンをハボテ・ヤイルと名づけて、今日に至っている。

Deu 3:15 マキルには私はギルアデを与えた。

(1) マナセの子孫であるヤイルが特に取り上げられている。

①彼が勇敢に戦い、バシヤンのアルゴブの全地域を征服したからである。

②その結果、その地域はハボテ・ヤイルと呼ばれるようになった。

(2) マナセ族に属するマキルも勇敢に戦い、ギルアデを征服した。

①彼には、ギルアデの地が与えられた。

5. 16～17 節

Deu 3:16 ルベン人とガド人にはギルアデからアルノン川までを、谷の真ん中を国境として、またアンモン人との国境としてヤボク川までを与えた。

Deu 3:17 またアラバも与えた。それはヨルダン川を境としてキネレテからアラバの海、すなわち、東の方はピスガの傾斜地のふもとにある塩の海までであった。

(1) ルベン族とガド族の領地が、さらに詳細に説明されている。

- ①北はギルアデから、南の境界線アルノン川まで
 - ②東の境界線は、ヤボク川である。アンモン人との国境になる。
 - ③西の境界線は、ヨルダン川で、ガリラヤ湖から死海までの地域
- * 当時は、ガリラヤ湖はキネレテ、死海は塩の海と呼ばれた。

Ⅱ. 2 部族半への勧告（3：18～20）

1. 18～19 節

Deu 3:18 私はそのとき、あなたがたに命じて言った。「あなたがたの神、【主】は、あなたがたが所有するように、この地をあなたがたに与えられた。勇士たちはみな武装して、同族、イスラエルの子らの先頭に立って渡って行かなければならない。

Deu 3:19 ただし、あなたがたの妻と子どもと家畜は、私が与えた町々にとどまってもよい。あなたがたには多くの家畜がいるのを、私はよく知っている。

(1) 民数記 32 章には、以下のようなことが記されている。

- ①ルベン族、ガド族、マナセの半部族は、大量の家畜を所有していた。
- ②ヨルダン川東岸は牧畜に適した地である。彼らはそこに住むことを願った。
- ③モーセは、この願いを聞いて怒った（カデシュ・バルネア事件の再現）。
- ④しかし彼らは、他の部族がそれぞれの領地を得るまで、ともに戦うと誓った。
- ⑤そこでモーセは、2 部族半にヨルダン川東岸に土地を与えることにした。
- ⑥約束の地を征服する戦いが目前に迫った今、モーセは誓いの実行を迫る。

(2) モーセの命令

- ①ヨルダン川東岸の地は、【主】が 2 部族半のために与えたものである。
- ②妻と子どもと家畜は、その地にとどまってもよい。
- ③勇士たちは、先頭に立ってヨルダン川を渡って行かなければならない。
- ④残された妻と子どもと家畜のことは心配する必要はない。
- ⑤なぜなら、その地には【主】の守りがあるからである。

2. 20 節

Deu 3:20 【主】があなたがたの同族に、あなたがたと同じように安息を与え、彼らもまたヨルダン川の向こう側で、あなたがたの神、【主】が与えようとしておられる地を所有するようになったなら、そのとき、あなたがたは、それぞれ私が与えた自分の所有地に帰ることができる。」

(1) 2 部族半には、同族が安住の地を手に入れるまでともに戦う義務があった。

- ①その義務を果たした後に、ヨルダン川東岸の所有地に帰ることができる。

(2) ここには、私たちへの教訓がある。

①自分の救いだけで満足しているなら、義務を果たしているとは言えない。

②先に救われた私たちには、福音の伝達という使命が与えられている。

③1 ペテ 2 : 9

1Pe 2:9 しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。

Ⅲ. ヨシュアへの権限委譲

1. 21 節

Deu 3:21 私はそのとき、ヨシュアに命じた。「あなたは、あなたがたの神、【主】がこれら二人の王に対して行われたすべてのことを、自分の目で見たと。【主】は、あなたがこれから渡って行くすべての国々にも同じようにされる。

(1) テーマが「土地の分割」から「リーダーの交代」へと移行する。

①この箇所は、その移行期について説明したものである。

②カナン征服戦争を指揮するのは、モーセではなくヨシュアである。

③ヨシュアは、師であるモーセからの励ましの言葉を必要としていた。

(2) モーセがヨシュアを励ますことは、【主】の御心にかなっていた。

①励ましの内容は、【主】がしてくださったことを思い出せということ。

②【主】は「ふたりの王」（シホンとオグ）と戦い、勝利してくださった。

*イスラエルの民は、【主】の戦いに用いられた器に過ぎない。

③【主】は、これからの戦いにおいても同じようにしてくださる。

2. 22 節

Deu 3:22 彼らを恐れてはならない。あなたがたのために戦われるのは、あなたがたの神、【主】であるからだ。」

(1) これから直面しようとしている敵を恐れる必要はない。

①恐れるべきお方は、神だけである。

②カナンの地征服の戦いの本質は、「【主】の戦い」である。

(2) 【主】がイスラエルのために戦われるというのは、申命記の主要テーマの一つである。

①神の御心を行う人は、「【主】の戦い」に参加している人である。

②自分の生活が、「【主】の戦い」の一翼を担っているかどうか、吟味しよう。

結論

1. 民数記 32 章と申命記 3 章の対比

- (1) 同じ出来事を扱っているが、両者の視点は微妙に異なる。
 - ①民 32 章は、イスラエルの民がいかにして土地を征服したかを記録している。
 - ②申 3 章は、【主】がその地を与えてくださったという点を強調している。
- (2) 私たちの人生においても、この 2 つの視点が必要である。
 - ①私が努力するという視点
 - ②神の助けによってそれが可能になるという視点
- (3) ピリ 4 : 13

Php 4:13 私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。

2. 勝利体験の習慣化

(1) 申 1 : 30

Deu 1:30 あなたがたに先立って行かれるあなたがたの神、【主】があなたがたのために戦われる。エジプトで、あなたがたの目の前で、あなたがたのためにしてくださったのと同じように。

- ①イスラエルの民は、不信仰に陥った。
- ②勝利体験を積み重ねることができなかった。

(2) 申 2 : 24

Deu 2:24 立ち上がって出発せよ。アルノン川を渡れ。見よ、わたしはヘシュボンの王アモリ人シホンとその国を、あなたの手に渡す。占領し始めよ。彼と戦いを交えよ。

- ①新しい世代が戦う最初の戦いである。

(3) 申 3 : 2

Deu 3:2 そのとき、【主】は私に言われた。「彼を恐れてはならない。わたしは、彼とそのすべての兵とその地を、あなたの手に渡している。あなたは彼に対して、ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホンにしたように行わなければならない。」

- ①次の戦いは、より容易なものとなった。

(4) 申 3 : 21~22

Deu 3:21 私はそのとき、ヨシュアに命じた。「あなたは、あなたがたの神、【主】がこれら二人の王に対して行われたすべてのことを、自分の目を見た。【主】は、あなたがこれから渡って行くすべての国々にも同じようにされる。

Deu 3:22 彼らを恐れてはならない。あなたがたのために戦われるのは、あなたがたの神、
【主】であるからだ。」

(5) 勝利体験がもたらすもの

- ① 次の戦いに挑むための力
- ② より困難な課題に取り組む信仰
- ③ 隣人への憐れみの心

(6) 「いつも」という言葉は、ある行為が習慣化していることを示している。

① 使 2 : 42

Act 2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをして
いた。

② 使 17 : 2

Act 17:2 パウロは、いつものように人々のところに入って行き、三回の安息日にわたって、
聖書に基づいて彼らと論じ合った。

③ 1 コリ 15 : 58

1Co 15:58 ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主
のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っ
ているのですから。

④ ピリ 4 : 4

Php 4:4 いつも主にあって喜ばなさい。もう一度言います。喜ばなさい。

(7) デボーションの習慣化

- ① ネットで読む Clay【クレイ】 11 月 1 日から創世記が始まる。

申命記 10 回
「約束の地に入れないモーセ」
申 3 : 23～29

1. はじめに

(1) イスラエルの民は、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。

- ①自分たちは、どこから来たのか。
- ②自分たちにカナンの地を与えると約束してくれたのは、誰か。
- ③カナンの地で生きる目的は何か。

(2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）

- ①第 1 の説教：歴史の回顧（1 : 5～4 : 43）
- ②第 2 の説教：契約に基づく義務（4 : 44～26 : 19）
- ③第 3 の説教：祝福と呪いの宣言（27 : 1～29 : 1）
- ④第 4 の説教：契約条項のまとめ（29 : 2～30 : 20）

(3) 3 章のアウトライン

- ①バシヤンの王オグに対する勝利（3 : 1～11）
- ②征服した土地の分割（3 : 12～22）
- ③約束の地に入れないモーセ（3 : 23～29）

*この箇所は、モーセの人生において最も悲しい場面である。

(4) カナンの地征服のための準備が始まった。

- *征服した土地の分割
- *カナンの地征服戦争への備え
- *リーダーシップの移行

2. メッセージのアウトライン

- (1) モーセの懇願（3 : 23～25）
- (2) 神の拒否（3 : 26）
- (3) 恵みの要素（3 : 27～29）

3. 結論：新約聖書における「懇願」の例

- (1) パウロの懇願
- (2) イエスの懇願

人間の懇願と神の拒否について学ぶ

I. モーセの懇願（3：23～25）

1. 23 節

Deu 3:23 私はそのとき、【主】に懇願して言った。

- (1) 懇願のタイミングはいつか。
 - ①約束の地に入る直前である。
 - ②エジプトを出てからの 40 年間の労苦が報われようとしている時である。

- (2) 懇願する人物は誰か。
 - ①忠実な【主】のしもべモーセである。
 - ②彼は、偉大な預言者である。
 - ③彼は、神の栄光が現れることだけを願っている聖徒である。
 - ④彼は、民の指導者である。
 - ⑤彼は、律法の付与者である。
 - ⑥彼は、120 歳になっていた。

- (3) 懇願の理由は何か。
 - ①モーセはメリバの水事件（岩を 2 度打った）で、カナン入国を禁じられた。
 - ②民 20：12

Num 20:12 しかし、【主】はモーセとアロンに言われた。「あなたがたはわたしを信頼せず、イスラエルの子らの見ている前でわたしが聖であることを現さなかった。それゆえ、あなたがたはこの集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。」

- ③これは、モーセにとっては大変辛いことであった。
- ④生涯かけて、民を約束の地に導こうとしてきたのに、自分はそこに入れない。

2. 24 節

Deu 3:24 「【神】、主よ。あなたは、あなたの偉大さとあなたの力強い御手を、このしもべに示し始められました。あなたのわざ、あなたの力あるわざのようなことができる神が、天あるいは地にいるでしょうか。

- (1) 「あなたの偉大さとあなたの力強い御手」
 - ①これは、出エジプトのことではない。
 - ②ヘシュボンの王シホンとバシヤンの王オグに対する勝利のことである。
- (2) 「このしもべに示し始められました」
 - ①モーセは、これらの戦いに参加し、勝利を目撃することができた。
 - ②約束の地に入れないと言われた自分が、その前哨戦への参加を許された。

- ③このことの中に、【主】の御心の変化が見て取れるのではないか。
- ④そこで彼は、約束の地に入ることを許可してほしいと懇願し始める。

(3) 「あなたの力あるわざのようなことができる神が、天あるいは地にいるでしょうか。」

- ①これは修辭的疑問文である。
- ②他の神々が存在するという意味ではない。
- ③【主】だけが偉大な、真の神であるという告白である。

3. 25 節

Deu 3:25 どうか私が渡って行って、ヨルダン川の向こう側にある良い地、あの良い山地、またレバノンを見られるようにしてください。」

- (1) ヨルダン川の東の地は征服され、領土の分割も終えた。
 - ①次に願うのは、ヨルダン川の西の地を征服することである。
- (2) カナンの地は、全体が石灰石の山地である。
 - ①そこは良い地である。
 - ②そこは良い山地である。
 - ③北の端にはレバノン山脈がある。

(3) 申 8 : 7～8 にある約束の地の描写

Deu 8:7 あなたの神、【主】があなたを良い地に導き入れようとしておられるからである。そこは、谷間と山に湧き出る水の流れや、泉と深い淵のある地、

Deu 8:8 小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろのある地、オリーブ油と蜜のある地である。

- ①地形を見ると、谷間と山に湧き出る水の川があるのが分かる。
- ②泉と深い淵があるのが分かる。
- ③豊かな農業生産が約束されている地であることが分かる。
- ④乾燥した荒野とは、正反対の特徴を持った土地である。

II. 神の拒否 (3 : 26)

1. 26 節

Deu 3:26 しかし【主】はあなたがたのゆえに私に激しく怒り、私の願いを聞き入れてくたさなかった。【主】は私に言われた。「もう十分だ。このことについて二度とわたしに語ってはならない。」

- (1) 【主】は、モーセの懇願を断固としてはねのけた。
 - ①「あなたがたのゆえに私に激しく怒り、」
 - ②これは責任転嫁ではない。
 - ③民のつぶやきが原因で、自分は罪を犯したという告白である。

- (2) 「もう十分だ。このことについて二度とわたしに語ってはならない」
 - ①【主】とモーセの親密な関係が示唆されている。
 - ②モーセが何度も同じ願いを繰り返していたことが示唆されている。
 - ③【主】の忍耐が限界を超えたことが示唆されている。
 - ④モーセは、【主】から与えられたもので満足しなければならない。

- (3) 罪の大きさと罰の大きさがアンバランスのように感じる人がいる。
 - ①多く与えられた者には、多くのことが要求される。
 - ②モーセは、多くの人のために執りなしをしてきた。
 - ③しかし、モーセのために執りなしができる人はいない。
 - ④律法の付与者であるモーセは、ひとつの罪のために厳しく罰せられた。

Ⅲ. 恵みの要素（3：27～29）

1. 27 節

Deu 3:27 ピスガの頂に登り、目を上げて西、北、南、東を見よ。あなたのその目でよく見よ。あなたがこのヨルダン川を渡ることはないからだ。

- (1) 【主】は、モーセの労苦に対する報いを用意された。
 - ①ヨルダン川を渡ることはないが、約束の地を見ることは許可された。

- (2) 地形
 - ①ネボ山（標高 1000 メートル）には 2 つの峰がある。
 - *北の峰がピスガの頂。
 - *南の峰がネボ山。
 - ②ピスガの頂はネボ山よりも 120m ほど低い、より北と西にある。
 - ③そこからは、約束の地がよく見える。
 - ④160 キロ北にヘルモン山が見える。
 - ⑤北西にはタボル山とギルボア山が見える（イズレエルの谷を横切っている）。
 - ⑥中央山地には、エバル山とゲリジム山が見える。
 - ⑦南西の方角には、エン・ゲディが見える。

2. 28 節

Deu 3:28 ヨシュアに命じ、彼を力づけ、彼を励ませ。彼がこの民の先頭に立って渡って行き、あなたが見るあの地を彼らに受け継がせるからだ。」

(1) ヨシュアへの権限委譲は、申命記の重要なテーマである。

①1 章～3 章で、このテーマが出て来るのは 3 度目である。

* 申 1 : 38、3 : 21、3 : 28

(2) ヨシュアを励ます最高の方法は、【主】の命令を民に伝えることである。

①ヨシュアは、民の先頭に立ってヨルダン川を渡って行く。

②ヨシュアは、約束の地をイスラエルの民に受け継がせる。

3. 29 節

Deu 3:29 こうして私たちは、ベテ・ペオルの前にある谷にとどまった。

(1) ここで、歴史の回顧が語られている場所が特定される。

①モアブの地である。

②ベテ・ペオルの前にある谷である。

*ベテ・ペオル（バアル神）は、「偶像の宮」という意味である。

(2) モーセは、ここで葬られることになる。

①申 34 : 6

Deu 34:6 主は彼を、ベテ・ペオルの向かいにあるモアブの地の谷に葬られたが、今日に至るまで、その墓を知る者はいない。

結論：新約聖書における「懇願」の例

1. パウロの懇願

(1) 2 コリ 12 : 7～9

2Co 12:7 その啓示のすばらしさのため高慢にならないように、私は肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高慢にならないように、私を打つためのサタンの使いです。

2Co 12:8 この使いについて、私から去らせてくださるようにと、私は三度、主に願いました。

2Co 12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

(2) パウロは、3 度願った。

(3) しかし、その願いは拒否された。

- (4) パウロの長所は、自立心である。
- (5) しかし、願いが拒否されことで、彼はより素晴らしい器とされた。
 - ①キリストの力により頼るようになった。
 - ②キリストが彼の人生を導いておられることが、より明らかになった。
 - ③弱い人への思いやりの心が、より深くなった。

2. イエスの懇願

- (1) ルカ 22 : 42

Luk 22:42 「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。」

- (2) 「杯」とは、神の怒り、神の裁きのことである。
- (3) イエスは、神の怒りの杯を受ける必要のない方であった。
- (4) しかし、父なる神は、イエスの懇願を聞き入れなかった。
- (5) イエスは、罪人の身代わりとして、神の怒りの杯を受けてくださった。
- (6) 1 ヨハ 4 : 10

1Jn 4:10 私たちが神を愛したのではなく、／神が私たちを愛し、／私たちの罪のために、／宥めのささげ物としての御子を遣わされました。／ここに愛があるのです。